貝塚市埋蔵文化財調査報告　第67集

貝塚市遺跡群発掘調査概要27

2005. 3. 31

貝塚市教育委員会

はじめに

貝塚市は、大阪府の南部、泉州地域にあって西に大阪湾、東に和泉葛城山を望む風光明媚な地であります。

先人によって育まれた文化の痕跡は埋蔵文化財として多数地中に残されています。しかし、今日の急速な開発により埋蔵文化財は失われていますが、発掘調査によって先人の痕跡を記録することにより、その歴史を明らかにする一方で、私たちの日常生活が先人によって培われた文化の賜物であることを認識し、これからの未来へ引き継いでいく必要があります。

本書は、平成16年度中に実施いたしました緊急発掘調査の結果報告です。住宅建築に伴う発掘調査であるため限定的な調査ではありますが、市域の歴史、文化を知るうえで欠かせない成果を得ることができました。

発掘調査ならびに本書の作成にあたり、多大なご指導、ご協力を賜りました関係各位に対し、深謝するともに、今後とも本市埋蔵文化財保護行政に対する一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成17年3月31日

貝塚市教育委員会
教育長　山本　太三郎

例　　言

1．本書は貝塚市教育委員会が平成16年度に国庫補助金を受けて実施した、大阪府貝塚市域における埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告である。
　なお、遺物整理の都合から一部、平成15年度調査についても掲載している。

2．発掘調査は平成16年４月１日より実施し、平成17年３月31日に終了した。
　調査担当者は以下のとおりである。
　平成15年度調査　　三浦　基、木嶋崇晴
　平成16年度調査　　三浦　基、木嶋崇晴

3．本書の執筆は、本文中に示したとおり各調査担当者が行い、編集は木嶋が行った。

4．出土遺物、調査記録は、貝塚市教育委員会において保管している。

凡　　例

1．図６～27の調査図面については、調査地位置図は縮尺１／5000、方位は座標北を上に統一している。また、調査区位置図の方位は磁北を示す。

2．本書で用いた標高は、東京湾平均海水面（T.P.）を基準とした。

3．本書の土色表示は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帳』1990年度版を用いた。

4．貝塚市遺跡分布図については、貝塚市域に限定し、山間部の一部は掲載していない。

目　　次

はじめに
例　　言、凡　　例
目　　次（本文目次、挿図目次、図版目次、表目次）

第１章　平成16年発掘調査の概要 …… 1
第２章　調査の結果 …… 7

１．加治・神前・畠中遺跡　2004－１区、2004－25区 …… 7
２．貝塚寺内町遺跡　2004－５区、2003－60区、2004－15区 …… 9
３．脇浜遺跡　2004－７区 …… 10
４．脇浜川端遺跡　2003－67区 …… 12
５．窪田遺跡・窪田廃寺　2004－４区、2004－29区 …… 12
６．地蔵堂遺跡　2003－61区、2004－６区 …… 14
７．地蔵堂廃寺　2004－38区 …… 16
８．久保遺跡　2004－48区 …… 17
９．半田北遺跡　2004－50区 …… 18
10．新井ノ池遺跡　2004－37区 …… 19
11．秦廃寺　2003－65区 …… 19
12．麻生中出口遺跡　2004－30区 …… 20
13．積善寺城跡　2004－26区、2004－31区 …… 21
14．名越遺跡　2003－63区、2003－66区 …… 23
15．三ケ山西遺跡　2004－18区、2004－22区 …… 24
16．三ツ松北垣外遺跡　2004－57区 …… 26
17．木積観音寺跡　2003－69区 …… 28

挿　図　目　次

図１　貝塚市遺跡分布図
図２　調査地位置図
図３　調査地位置図
図４　調査地位置図
図５　調査地位置図
図６　2004－１区
図７　2004－25区
図８　2004－５区
図９　2003－60区、2004－15区
図10　2004－７区
図11　2003－67区
図12　2004－４区
図13　2004－29区
図14　2003－61区
図15　2004－６区
図16　2004－38区
図17　2004－48区
図18　2004－50区
図19　2004－37区
図20　2003－65区
図21　2004－30区
図22　2004－26区、2004－31区
図23　2003－63区
図24　2003－66区
図25　2004－18区、2004－22区
図26　2004－57区
図27　2003－69区

図　版　目　次

図版１　加治・神前・畠中遺跡（2004－１区）
　１．2004－１区　遺構検出状況（北より）
　２．2004－１区　SD－１断面（西より）
図版２　加治・神前・畠中遺跡（2004－25区）
　１．2004－25区　第１遺構面検出状況（東より）
　２．2004－25区　調査区西壁断面（東より）
図版３　貝塚寺内町遺跡（2004－15区）
　１．2004－15区　完掘状況（東より）
　２．2004－15区　調査区南壁断面（北より）
図版４　地蔵堂遺跡（2004－６区）
　１．2004－６区　完掘状況（南より）
　２．2004－６区　調査区西壁断面（東より）
図版５　久保遺跡（2004－48区）
　１．2004－48区　完掘状況（西より）
　２．2004－48区　調査区北壁断面（南より）
図版６　半田北遺跡（2004－50区）
　１．2004－50区　完掘状況（東より）
　２．2004－50区　調査区北壁断面（南より）
図版７　新井ノ池遺跡（2004－37区）
　１．2004－37区　完掘状況（北より）
　２．2004－37区　調査区南壁断面（北より）
図版８　秦廃寺（2003－65区）
　１．2003－65区　完掘状況（東より）
　２．2003－65区　調査区北壁断面（南より）
図版９　積善寺城跡（2004－31区）
　１．2004－31区　調査区１完掘状況（北より）
　２．2004－31区　調査区１西壁断面（東より）
図版10　名越遺跡（2003－63区）
　１．2003－63区　遺構検出状況（南より）
　２．2003－63区　鋤溝検出状況（東より）
図版11　名越遺跡（2003－66区）
　１．2003－66区　完掘状況（東より）
　２．2003－66区　SD－２断面（南より）
図版12　三ケ山西遺跡（2004－18区）
　１．2004－18区　調査区２完掘状況（南より）
　２．2004－18区　調査区２東壁断面（西より）
図版13　三ケ山西遺跡（2004－22区）
　１．2004－22区　遺構検出状況（南より）
　２．2004－22区　調査区東壁断面（西より）
図版14　木積観音寺跡（2003－69区）
　１．2003－69区　調査区１遺構検出状況（西より）
　２．2003－69区　調査区２完掘状況（南より）

表　目　次

表１．平成16年国庫補助事業一覧
　　（平成16年１月～12月）

第１章　平成16年発掘調査の概要

平成16年の埋蔵文化財発掘届出及び通知の総件数は444件、遺跡外試掘調査依頼は25件である。平成15年の届出件数と比較すると引き続き増加傾向にある。その要因としては、小・中規模の宅地造成が行なわれたことにより分譲住宅の建築件数が増加したことである。また個人による住宅の建て替えや増築についても昨年と比較して増加していることが挙げられる。住宅以外の開発は、宅地造成21件、共同住宅の建築17件、店舗13件であり、宅地造成、店舗は平成15年の届出件数とあまり変化はないが、共同住宅については倍増している。

新井・鳥羽北遺跡においては、大型店舗の建設に先立ち確認調査を行ない、その成果をもとに発掘調査を実施した。

遺跡範囲外においての開発は、前年に引き続き増加している。そのうち1000㎡を超える開発は７件にのぼり、その目的は、宅地造成、共同住宅、店舗等である。

届出・通知にかかわる対応について、確認調査は61件、立会調査は118件、慎重工事は265件であり、このうち個人住宅の建設に伴う調査は25件である。

新規の遺跡発見については、小瀬大道端遺跡、石才通井口遺跡、海塚宝伝遺跡である。新井ノ池遺跡と新井・鳥羽北遺跡については、遺跡の範囲拡張を行った。

	遺跡名	調査番号	遺跡略号	開発地
	（平成15年度）			
1	貝塚寺内町遺跡	2003－60	JN	中884－１
2	地蔵堂遺跡	2003－61	GZZ	地蔵堂120－１の一部、119－２の一部
3	名越遺跡	2003－63	NG	清児481－４
4	秦廃寺	2003－65	HT	半田731－６
5	名越遺跡	2003－66	NG	清児520、522、1059、1315
6	脇浜川端遺跡	2003－67	WK	脇浜4－576－２
7	木積観音寺跡	2003－69	KKD	木積802－１、803－１の一部
	（平成16年度）			
8	加治・神前・畠中遺跡	2004－１	KKH	畠中２－441－３
9	窪田遺跡・窪田廃寺	2004－４	KTK	窪田120－２、121－１
10	貝塚寺内町遺跡	2004－５	JN	北町127－22、127－23、127－24
11	地蔵堂遺跡	2004－６	GZZ	堤45－１
12	脇浜遺跡	2004－７	WH	脇浜２－593－10
13	貝塚寺内町遺跡	2004－15	JN	北町11－２
14	三ケ山西遺跡	2004－18	MYN	三ツ松825－１、827－３、2943－１
15	三ケ山西遺跡	2004－22	MYN	三ツ松823－10、825－５、826－５
16	加治・神前・畠中遺跡	2004－25	KKH	脇浜１－113－４
17	積善寺城跡	2004－26	SZJ	橋本170－１
18	窪田遺跡・窪田廃寺	2004－29	KTK	沢16－２、16－19、王子993－１
19	麻生中出口遺跡	2004－30	AND	麻生中777－１他４筆
20	積善寺城跡	2004－31	SZJ	橋本176－４、176－５、176－７、176－８
21	新井ノ池遺跡	2004－37	NI	麻生中1059－１の一部
22	地蔵堂廃寺	2004－38	GZZH	地蔵堂748－２
23	久保遺跡	2004－48	KB	久保95－２
24	半田北遺跡	2004－50	HDK	半田248－１・－２・－７の一部
25	三ツ松北垣外遺跡	2004－57	MK	三ツ松1023－４の一部

表１　平成16年国庫補助事業一覧（平成16年１月～12月）

1.沢新出遺跡 2.沢海岸遺跡 3.沢遺跡 5.長楽寺跡 7.地蔵堂丸山古墳 8.地蔵堂廃寺 9.下新出遺跡 10.秦廃寺 15.麻生中新池遺跡 16.河池遺跡 17.水間寺遺跡 18.木積観音寺跡 20.堀遺跡 21.橋本遺跡 22.貝塚寺内町遺跡 23.加治・神前・畠中遺跡 24.明楽寺跡 25.沢共同墓地遺跡 26.沢西出遺跡 27.沢海岸北遺跡 28.沢城跡 29.新井・鳥羽遺跡 30.新井ノ池遺跡 31.半田遺跡 32.麻生中遺跡 34.澱池遺跡 35.積善寺城跡 36.清児遺跡 37.集原池遺跡38.高井天神廃寺・高井城跡 39.森城跡 40.森B遺跡 41.森ノ大池遺跡 42.森A遺跡 43.二ツ池遺跡 44.千石堀遺跡 45.水間墓地 46.三ケ山城跡 47.片山墓地 48.蛇谷城跡 51.窪田遺跡・窪田廃寺 53.坊城遺跡 54.三ツ松遺跡 55.槍ヶ谷城跡 56.半田遺跡 57.堤遺跡 58.小瀬五所山遺跡 59.石才遺跡 60.王子遺跡 61.土生遺跡 64.海岸寺山遺跡 66.脇浜遺跡 67.今池遺跡 68.三ヶ山遺跡 69.三ヶ山西遺跡 70.石才南遺跡 71.名越遺跡 72.地蔵堂遺跡 73.名越西遺跡 74.木積遺跡 75.新井・鳥羽北遺跡 78.沢西遺跡 79.王子西遺跡 80.津田遺跡 81.三ヶ山オニ谷遺跡 82.福田遺跡 83.森下代遺跡 84.三ツ松北垣外遺跡 85.薬師池西遺跡 86.麻生中出口遺跡 87.小瀬遺跡 88.堤三宅遺跡 89.沢新開遺跡 90.沢タナジリ遺跡 91.堀新遺跡 92.橋池遺跡 93.麻生中下代遺跡 94.堀秋毛遺跡 95.半田北遺跡 96.沢老ノ塚遺跡 97.東遺跡 98.馬場遺跡 100.鳥の池西遺跡 101.白地谷遺跡 102.津田北遺跡 103.久保遺跡 108.水間二ノ戸遺跡 109.窪田ハマデ遺跡 110.海塚遺跡 111.脇浜川端遺跡 112.馬場笹力遺跡 113.橋本野岸ノ下遺跡 114.麻生中薬師堂遺跡

図１　貝塚市遺跡分布図（部分・貝塚市域のみ）

2004-5区
2004-15区
2003-60区
2004-25区
2004-1区
2004-7区
2003-67区
0
400m

図２　調査地位置図

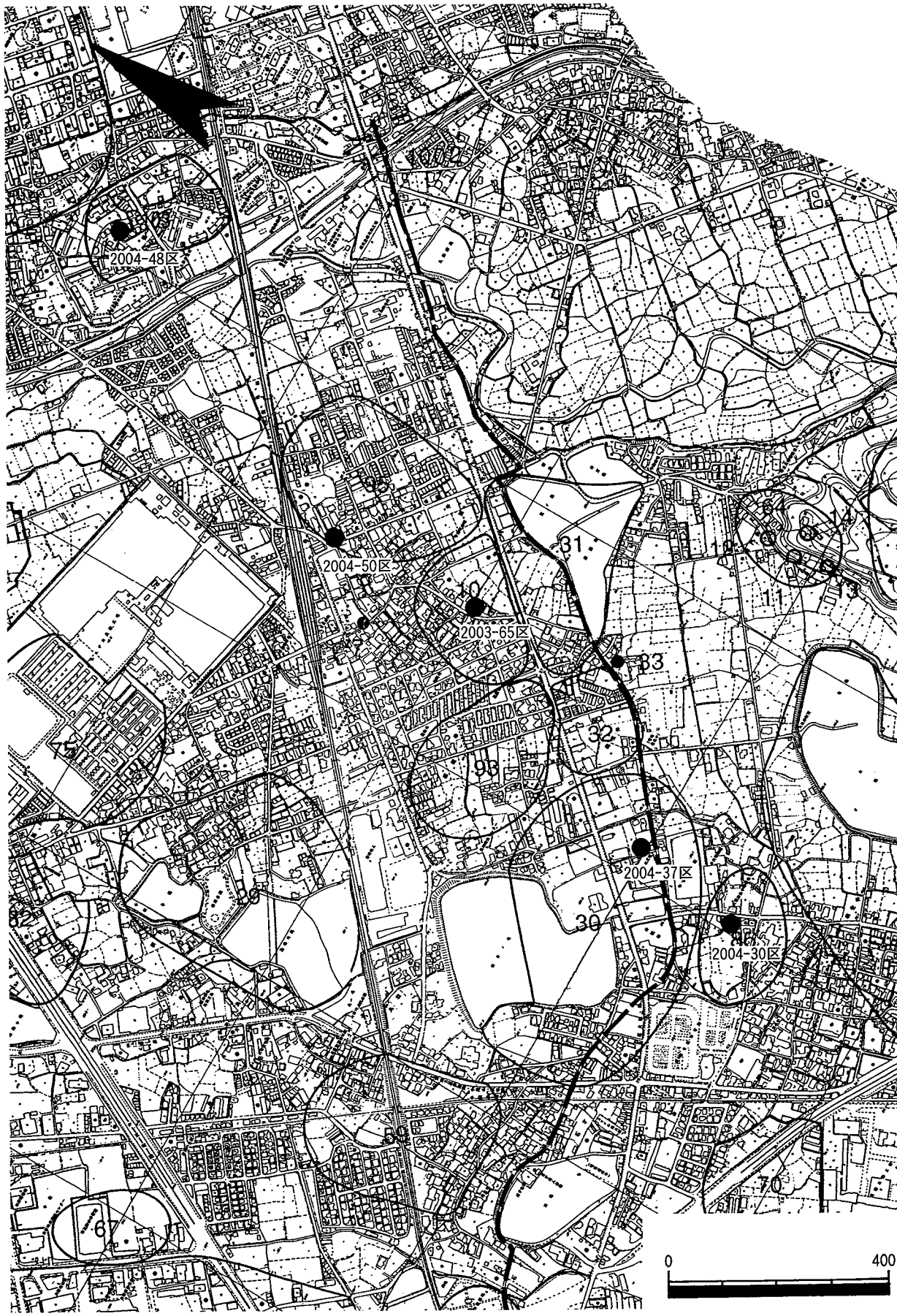

2004-48区
2004-50区
2003-65区
2004-37区
2004-30区
31
10
33
32
93
30
70
67
0
400m

図3　調査地位置図

2003-66区
2003-63区
2004-26区
2004-31区
2004-6区
2004-38区
2003-61区
2004-4区
2004-29区
0
400m

図４　調査地位置図

図５　調査地位置図

第２章　調査の成果

１．加治・神前・畠中遺跡

加治・神前・畠中遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高11～20mに位置する。本遺跡は、これまでの調査で弥生時代の井戸跡、古墳時代前期の掘立柱建物跡、古墳時代後期の竪穴住居跡、古代の掘立柱建物跡、竪穴住居跡、井戸跡、溝跡等を検出しており、古代においては集落跡もしくは公的施設が存在した可能性がある。また平成12年度の調査において平安時代の瓦窯跡を10基検出しており、生産施設の存在が明らかとなった。

2004－１区の調査　（図６・図版１）

本調査は、畠中２－441－３において実施した。調査地の小字名は「西ノカキ外」である。調査は、申請地内において６㎡の調査区を設定して実施した。

調査区の層序は、１層が盛土（層厚0.15m）、２層は旧耕土（層厚0.15m）、３層は耕作土混じり灰黄褐色土（層厚0.3m）である。５層は褐色粘土、９層は暗灰黄色礫砂であり、５層・９層は地山である。３層は整地土層である。

地山面において東西方向の溝（SD－１）を１条検出した。SD－１は検出幅2.3m、深さ0.7m、埋土は上層が暗灰黄色粘質土（４層）、下層は黄灰色粘土（６層）である。

遺物は３層から近世の陶磁器、瓦が出土している。SD－１から遺物は出土していないが、埋土の状況から判断して近世のものと考えられる。　（三浦）

2004－25区の調査　（図７・図版２）

本調査は、脇浜１－113－４において実施した。調査地の小字名は「クノギ」であり、周辺には「辻堂」が認

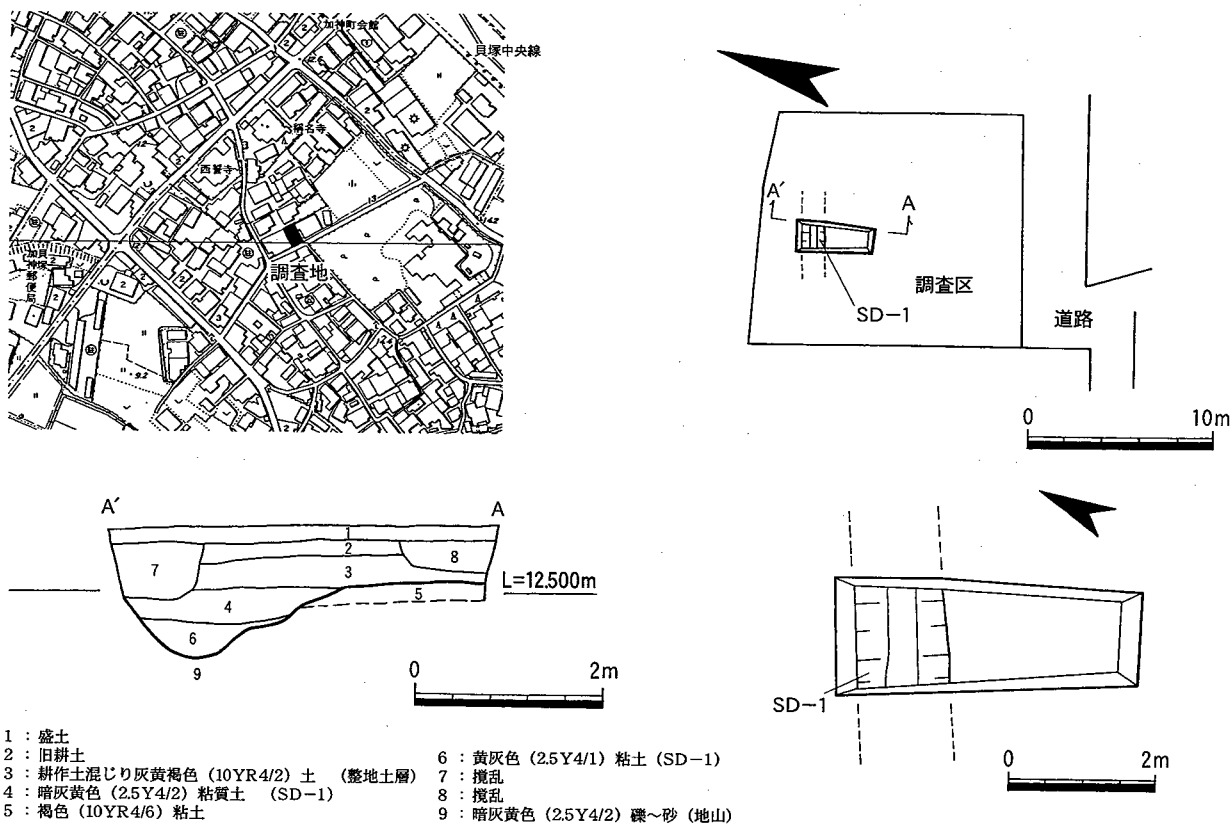
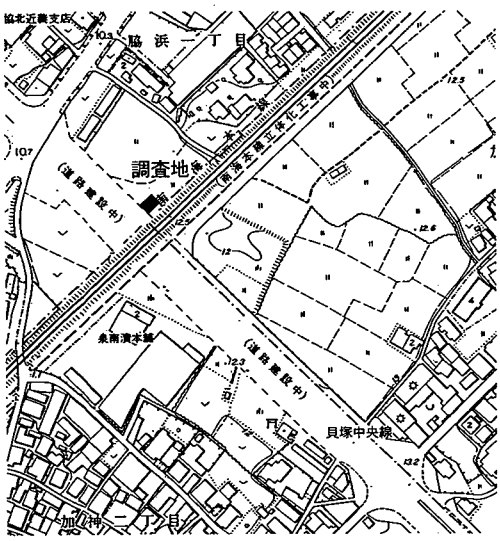
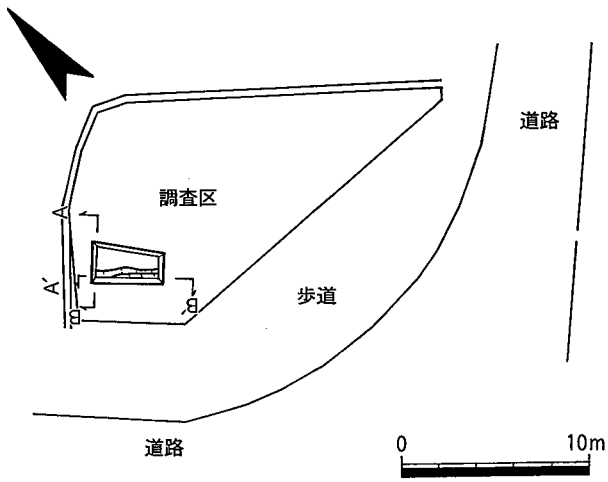


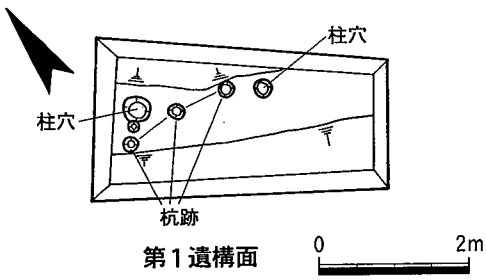
図６　2004－１区

められる。調査は、申請地内において８㎡の調査区を設定して行った。

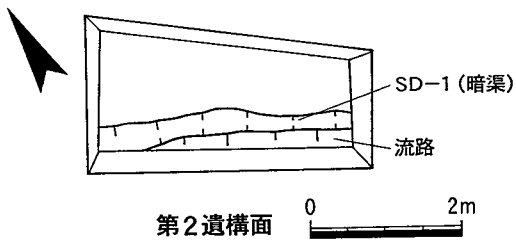
調査区の層序は、１層が現耕土（層厚0.3m）、２層は盛土（層厚0.25m）、３層は撹乱（層厚0.4m以上）、４層は旧耕土（層厚0.05m）、５・６層は暗灰黄色土を主体とする遺物包含層（層厚0.2m）、７層は灰黄褐色土（層厚0.1m）、８・９層は整地層（層厚0.2m）、10層はSD－１（層厚0.2m）、11層は灰黄褐色粘質シルト（層厚0.1m）、12層は灰オリーブ色細砂礫（層厚0.2m以上）、13層は黄褐色粘質シルト（地山）である。



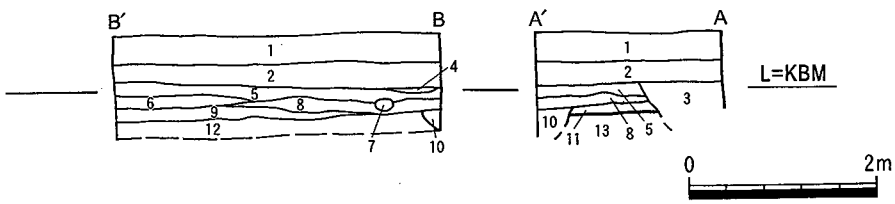




第１遺構面



第２遺構面



１：現耕土
２：盛土
３：撹乱
４：旧耕土
５：暗灰黄色（2.5Y5/2）土混じりにぶい黄色（2.5Y6/3）粘質土（近世耕土層）
６：灰黄色（2.5Y6/2）土　（近世耕土層）
７：灰黄褐色（10YR5/2）土
８：浅黄色（2.5Y7/4）粘質土（整地層）
９：にぶい黄色（2.5Y6/3）砂質土混じり暗灰黄色（2.5Y5/2）土（整地層）
10：灰色（10Y5/1）粘質土　（SD−1）
11：灰黄褐色（10YR5/2）粘質シルト（中世遺物包含層）
12：灰オリーブ色（5Y5/2）細砂礫　（流路堆積層）
13：黄褐色（2.5Y5/3）粘質シルト　（地山）

図７　2004－25区

5・6層からは陶磁器が出土しており、近世の耕土層と考えられる。7層は整地作業時に混入したブロック土と考えられる。8・9層は粘質土を主体とする整地層であり、層中より染付け碗片が出土していることから、近世の整地層と考えられる。8層上面で遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。SD－1（10層）は、暗渠の可能性があり、埋土より染付け碗片が出土しているため、時期は近世と考えられる。11層は中世の遺物包含層であり、土師器片が出土している。11層下面（第1遺構面）において遺構検出を行い、径0.2mと径0.3mの2種類の遺構を検出した。径0.2mの遺構は柵などの杭跡、径0.3mの遺構は建物の柱穴と考えられる。遺構の切り合い関係により柱穴の方が古いと判断される。

調査区の南側において流路の堆積層を検出したが、遺物が出土していないため、埋没時期は不明である。

申請地の西側の側道建設工事に伴う発掘調査（平成11年度）において、中世の遺構として掘立柱建物跡を検出している。掘立柱建物の時期を出土遺物により鎌倉時代と推定しており、今回の確認調査において検出した柱穴は、鎌倉時代の可能性がある。

（木嶋）

2．貝塚寺内町遺跡

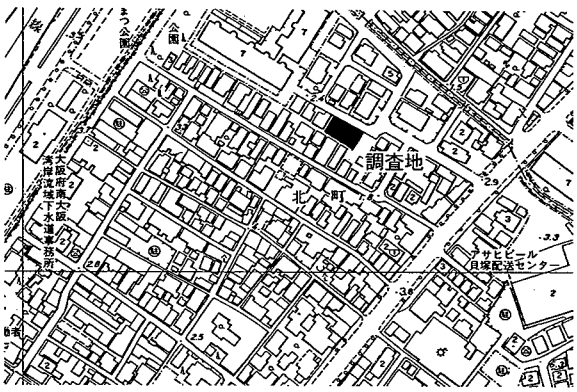
本遺跡は、本市北西部の海岸部に位置し、標高は2～11m、願泉寺を中心として中世末期に成立した寺内町であり、周囲に濠や土塁をめぐらせた城郭寺院跡である。願泉寺は天正年間には一時、本願寺が置かれるなど真宗寺院のなかでも特別な存在であった。本遺跡の調査では、濠、土塁の他、溝、土坑、水琴窟等の近世の遺構を多数検出している。

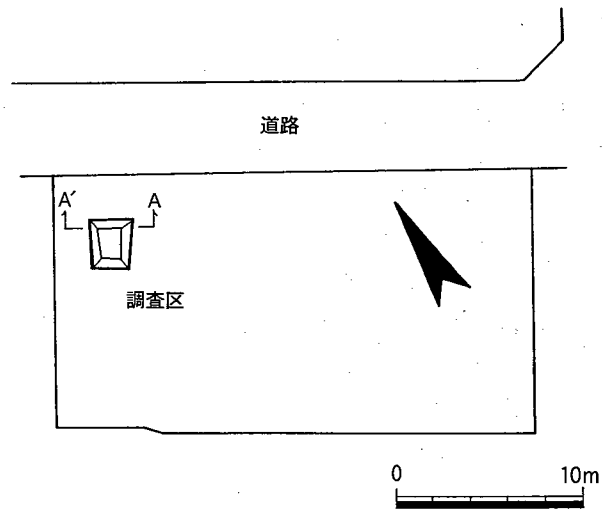
2004－5区の調査　（図8）

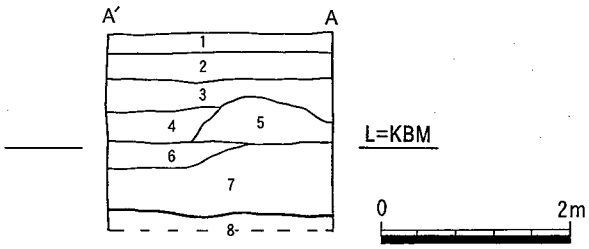
本調査は、北町127－22、127－23、127－24において実施した。調査は、申請地内において5㎡の調査区を設定して行った。

調査区の層序は、第1層は盛土（層厚0.2m）、第2層は灰黄色粘質土（層厚0.3m）、第3層はオリーブ黒色土（層厚0.35m）、第4層はオリーブ黒色土混じりにぶい黄橙色砂（層厚0.3m）、第5層はにぶい黄橙色砂（層厚0.5m）、第6層は暗灰黄色砂（層厚0.3m）、第7層はオリーブ黒色砂質土（層厚0.4～0.7m）、第8層はにぶい黄色砂（地山）である。第1層～第7層は盛土および撹乱であり、第3・4層より多量のレンガが認められた。

第7層からはレンガ、コンクリートブロックとともに瓦、陶磁器片が出土している。第8層は砂層であり、湧







1：盛土
2：灰黄色（2.5Y7/2）粘質土
3：オリーブ黒色（7.5Y3/1）土
4：オリーブ黒色（2.5Y3/1）土混じりにぶい黄橙色（10YR7/2）砂
5：にぶい黄橙色（10YR7/2）砂
6：暗灰黄色（2.5Y5/2）砂
7：オリーブ黒色（5Y3/1）砂質土
8：にぶい黄色（2.5Y6/3）砂（地山）

図8　2004－5区

水のため遺構検出はできなかった。

申請地およびその周辺は、工場跡地にあたり、工場解体後に廃材等を地中に廃棄したものと考えられる。

（木嶋）

2003－60区の調査　（図９）

本調査は、中884－１において実施した。調査は、申請地内において4.5㎡の調査区を設定して行った。

調査区の層序は、第１・２層は盛土（層厚0.4m）、第３層は暗灰黄色小礫混じり粘質土（にぶい黄色ブロック土と炭化物が混入する・層厚0.25m）、第４層は灰黄褐色砂混じり粘質土（層厚0.25m）、第５層は明黄褐色粘土（地山）である。

第３層は整地層であり、第３層上部（層断面図４層）に粘土（層断面図３層）を用いて土間を作っている。第３・４層より瓦片が出土している。時期は近世後半から幕末にかけてと考えられる。

調査区の壁断面において溝３条を検出した。SD－１は検出幅0.6m、深さ0.15m、埋土は褐灰色砂混じり粘質シルトである。SD－２は検出幅0.8m以上、深さ0.2m、埋土は褐灰色砂混じり粘質シルトであり、SD－１の埋土と比してSD－２の埋土の方が粘性は強い。SD－３は検出幅1.4m、深さ0.2m、埋土は灰黄褐色砂質シルトである。SD－１とSD－２の埋土と比してSD－３の埋土は砂が多く混入している。溝の切り合い関係は、SD－３が古く、SD－２、SD－１は新たに掘削された溝と考えられる。これらの溝からは遺物は出土していないため、時期は断定できないが、上層の時期と考え合わせると近世中期頃に設けられたものと推測される。　（木嶋）

2004－15区の調査　（図９・図版３）

本調査は、北町11－２において実施した。 調査は、申請地内において６㎡の調査区を設定して行った。

調査区の層序は、１層は盛土（層厚0.4m）、２層は撹乱（層厚0.15m）、３層は暗灰黄色粘土混じり砂質土（層厚0.15m）、４層は灰色礫混じり砂質土（層厚0.05m）、５層は黄灰色粗砂混じり粘質土（層厚0.2m）、６層は灰色砂混じり粘質土（層厚0.15m）、７層は灰色砂礫混じり砂質土（層厚0.05m）、８層はSD－３、９・10層はSD－２、11～13層はSD－１、14層は浅黄色砂礫（地山）である。

３・４層は５層と比較して土質が締まった層であるため、土間層と考えられる。５層は粗砂が混入しており、３・４・６層に比べ土質に締まりがない。遺物は瓦、陶磁器が出土している。６・７層から遺物は出土していない。５～７層は整地層と考えられる。

地山面において遺構検出を行い、溝を検出した。溝は少なくとも２回の掘り直しが行われており、SD－１（11～13層）、SD－２（９・10層）、SD－３（８層）に大別できる。SD－１は検出幅1.8m以上、深さ0.5m、埋土は上層が黄灰色砂～細砂混じり粘質シルト、下層は褐灰色粘質シルトである。遺物は瓦片、陶磁器片が出土している。SD－２は検出幅1.6m、深さ0.2m、埋土は灰色粗砂～砂混じり砂質土である。SD－３は幅0.8m、深さ0.2m、埋土は灰オリーブ色砂である。SD－２、SD－３からは遺物は出土していない。

SD－１の埋土は、砂が混入する粘質シルトを主体としていることから、水流はほとんどない状態であったと推測される。SD－１の埋没後にSD－２・SD－３が設けられており、SD－２の埋土はSD－１と比較して砂が多く混入すること、SD－３の埋土は砂を主体としていることから、これらの溝は比較的短期間に埋没し、その機能を失ったものと考えられる。

SD－１より瓦片、陶磁器片が出土しており、SD－１は18世紀以降に埋没したものと推測される。SD－１～SD－３については、申請地の北側に石組みの側溝が存在することから、この側溝の前身施設であると考えられる。

（木嶋）

３．脇浜遺跡

本遺跡は、標高２～３ｍの近木川右岸に位置する縄文時代から近世にかけての散布地、生産遺跡である。本遺跡からは蛸壺等の多数の漁撈具が出土しており、漁業に携わる集落跡と推定している。また製塩土器が出土する

ことから、海岸縁辺部という立地条件を活かして、製塩を行っていたと考えられる。㈶大阪府埋蔵文化財協会（現：㈶大阪府文化財センター）による1986年（昭和61年度）の調査では、出土遺物により少なくとも縄文時代晩期までさかのぼることが確認されている。さらに古墳時代の掘立柱建物跡や中世のピットを検出している。1991年（平成２年度）の調査では、古墳時代後期の竪穴住居が２棟検出されている。

2004－７区の調査　（図10）

本調査は、脇浜２－593－10において実施した。調査地の小字名は「五反田」である。調査は、申請地内において３㎡の調査区を設定して行った。

調査区の層序は、第１層は盛土（層厚1.3m）、第２層は浅黄色土混じり黄灰色砂質土（層厚0.15m）、第３層はにぶい黄橙色土混じり黄灰色土（層厚0.15m）、第４層はにぶい黄橙色粘質土混じり褐灰色粘質シルト（層厚

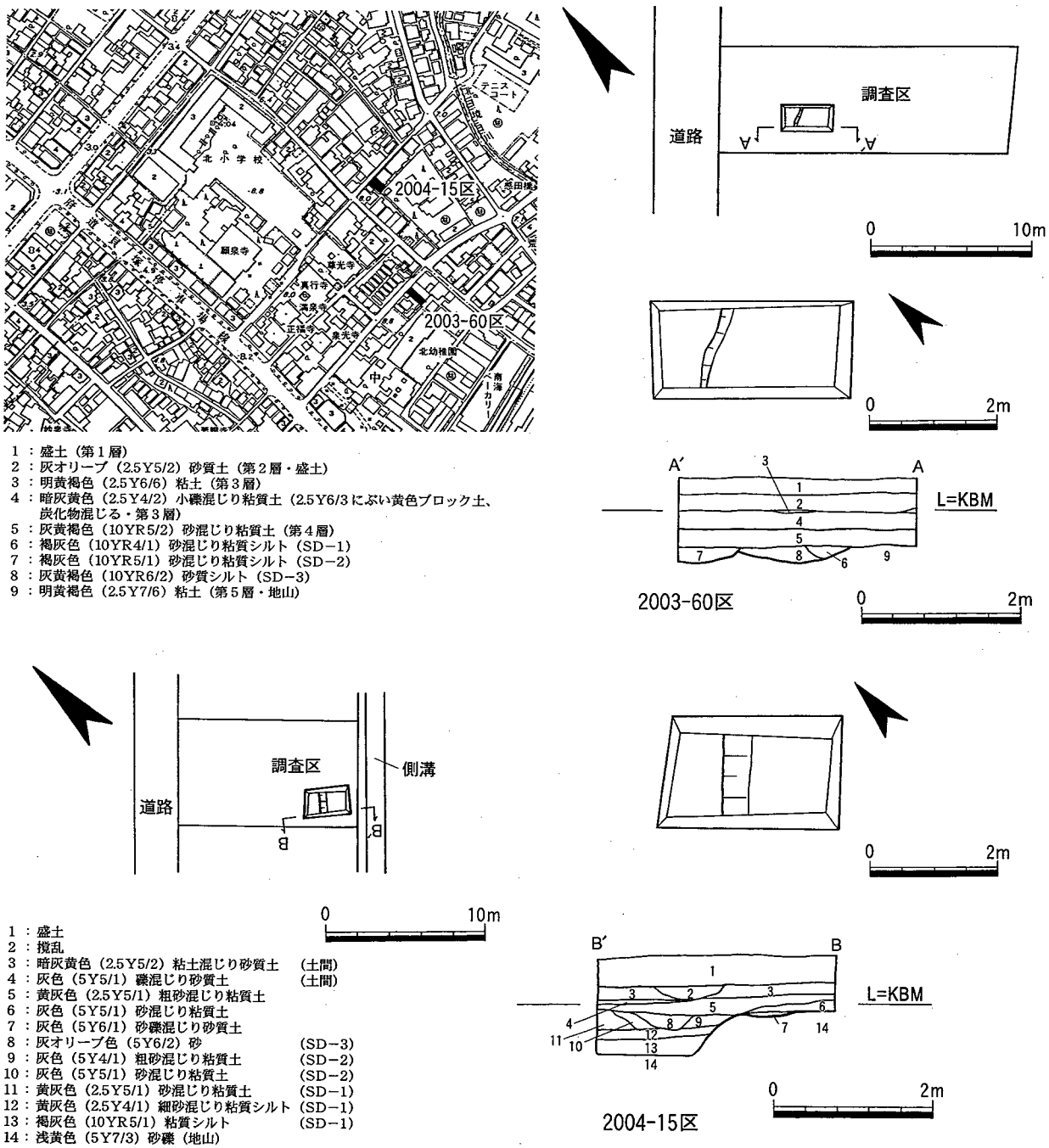


図９　2003－60区、2004－15区

0.15m)、第5層は褐灰色砂混じり粘土（層厚0.1m)、第6層は褐灰色粘土ブロック混じり淡黄色粘土（層厚0.1m)、第7層は灰白色砂（層厚0.2m以上）である。

第2層～第5層は遺物包含層であり、第4・5層より瓦器、土師器、白磁の細破片が出土している。第6・7層より遺物は出土していない。第5層は土壌化層であり、本申請地が湿地状態であったものと考えられる。出土遺物により中世に開発が行われ、近・現代に至るまで耕地として利用されたと考えられる。

調査区の掘削深度については、建設工事の掘削深度との関係で第7層以下を掘削することができず、地山を確認することはできなかった。また調査区の壁断面において遺構は検出できなかった。（木嶋）

4．脇浜川端遺跡

本遺跡は、近木川右岸に位置し、中世の集落跡と推定している。この地は近木川の氾濫原にあたり、標高は3.8～5mである。1998年（平成10年度）の発掘調査では、14世紀の溝、近世以降の耕地跡を検出している。本地域の耕地開発は中世より開始された。

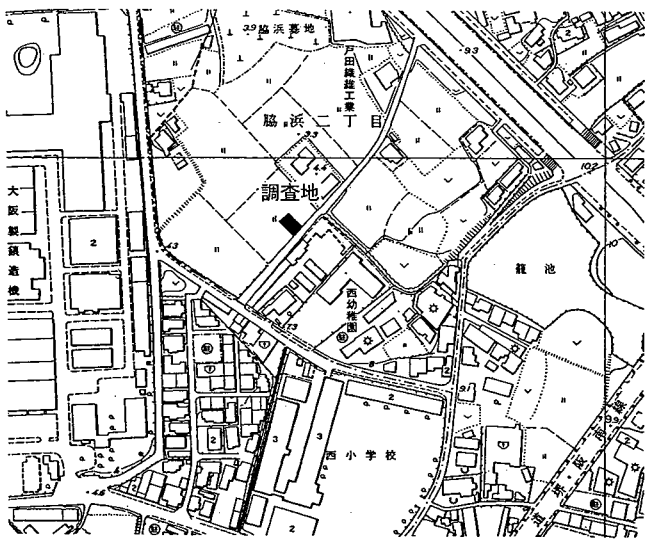
2003－67区の調査　（図11）

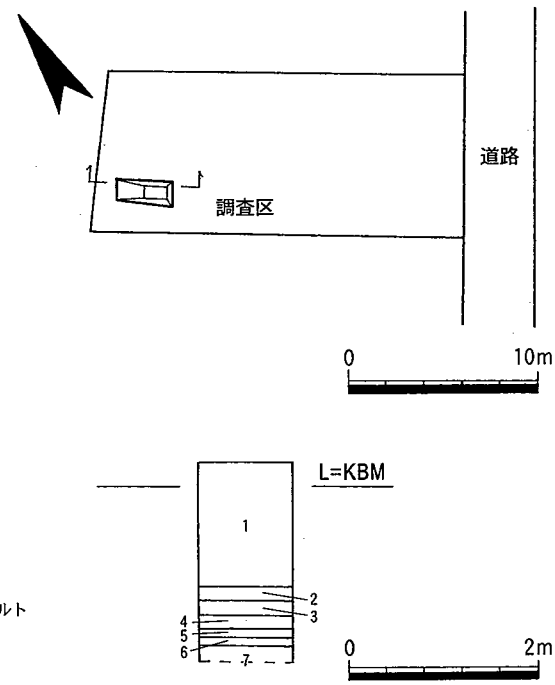
本調査は、脇浜4－576－2において実施した。調査地の小字名は「分け田」であり、周辺には「長楽寺」、「長楽寺寺山」がある。調査は、申請地内において4㎡の調査区を設定して行った。

調査区の層序は、1層は盛土（層厚0.6m)、2層～4層は灰色砂質土を主体とする。5層・6層は灰黄色砂（層厚0.1～0.6m)、7層は灰色粘土（層厚0.2m)、8層はにぶい黄色粗砂礫（層厚0.3m以上)、9層は明黄褐色粘土（地山）である。

2層～4層は、木材片や灰色ブロック粘土が混入しており、撹乱と考えられる。5層～8層は流路堆積であり、5・6層は流路2、7・8層を流路1とした。流路1の埋土は、粗砂礫を主体とし、5～10cm大の礫が密に堆積する。7層の粘土層については、流路1の埋没後、滞水状態であったと推測される。その後、流路2は流路1の堆積層の一部を削り取って形成している。流路1・流路2からは遺物が出土していないため、埋没時期は不明である。これらの流路は、堆積層の観察により西方向へと流れていたと考えられる。（木嶋）

5．窪田遺跡・窪田廃寺





1：盛土
2：浅黄色（2.5Y7/4）土混じり黄灰色（2.5Y6/1）砂質土
3：にぶい黄橙色（10YR7/3）土混じり黄灰色（2.5Y6/1）土
4：にぶい黄橙色（10YR7/3）粘質土混じり褐灰色（10YR5/1）粘質シルト
5：褐灰色（10YR4/1）砂混じり粘土
6：褐灰色（10YR4/1）粘土ブロック混じり淡黄色（2.5Y8/4）粘土
7：灰白色（2.5Y7/1）砂

図10　2004－7区

本遺跡は、弥生時代から中世にかけての遺物散布地ならびに寺院跡である。1985年（昭和59年度）に実施した発掘調査では、溝２条、土坑状遺構２基、ピット３基、落込み状遺構を検出している。遺物は、溝より瓦器、土師器、青磁、陶器等が出土、土坑状遺構より瓦器、土師器、青磁等が出土している。これらの遺構は13世紀後半から14世紀のものと考えられる。本遺跡の西に澱池遺跡があり、奈良時代から中世にかけての集落跡である。1985年（昭和59年度）に実施した発掘調査では、土坑状遺構１基、ピット３基を検出している。これらの遺構は14世紀後半ごろと推測される。

（木嶋）

2004－４区の調査　（図12）

本調査は、窪田120－２、121－１において実施した。調査地の小字名は「古苗代」であり、周辺には「ツジ堂」、「道柳」等がある。調査は、申請地の浄化槽部分について15㎡の調査区を設定して行った。

調査区の層序は、第１層は盛土（層厚0.45m）、第２層は灰色土（旧耕土・層厚0.2m）、第３層は浅黄色粘土ブロック混じり灰オリーブ色砂質土（撹乱・層厚0.7m）、第４層は灰色砂質土（旧耕土・層厚0.1m）、第５層は明黄橙色粘土～シルト（地山）である。

第３層は撹乱であり、埋土は明黄橙色粘土(地山)と耕土が混在する。第３層より須恵器、瓦の破片が出土している。地山面において遺構検出を行ったが、土地の削平が行われているため遺構を確認することはできなかった。

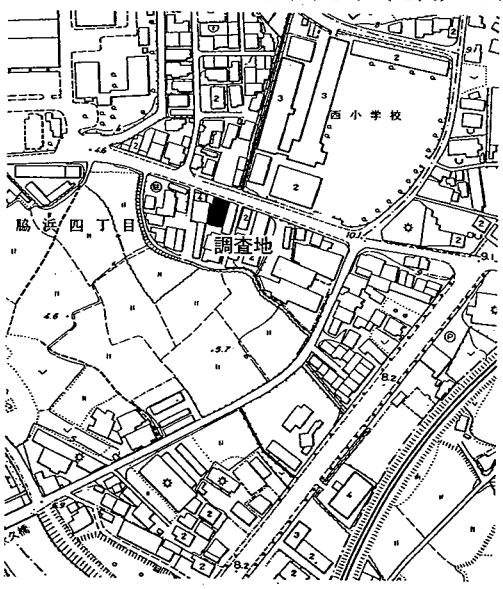
調査区の壁断面観察により申請地は、撹乱および土地の削平を受けており、遺物包含層は残存していない。また第３層である撹乱より須恵器等の遺物が出土していることから、土地の削平以前には、古代から中世にかけての遺跡包含層が存在していた可能性がある。

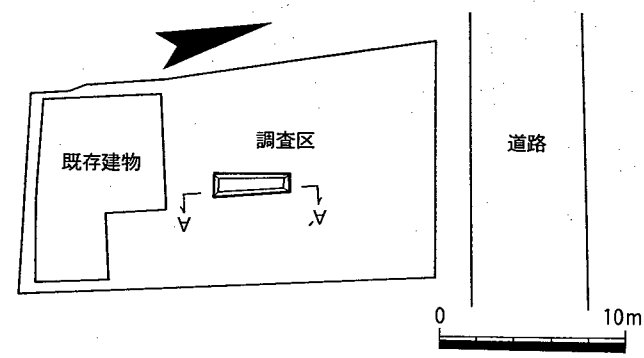
（木嶋）

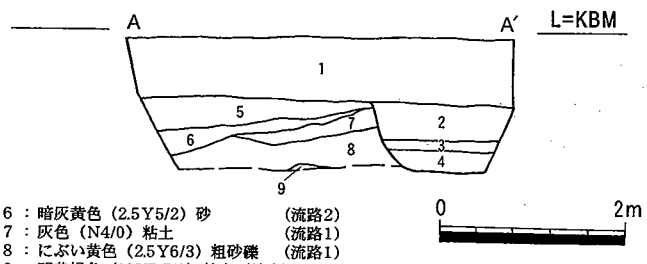
2004－29区の調査　（図13）

本調査は、沢16－２、16－19、王子993－１において実施した。調査地の小字名は「ハザマ」、「土サイ」である。調査については、申請地北側は第１層の盛土は地盤改良が行われており、掘削が困難であったため、調査は改良の影響を受けていない場所において4.5㎡の調査区を設定して行った。

調査区の層序は、第１層は盛土（層厚1.1m）、第２層は旧耕土（層厚0.15m）、第３層は黄灰色砂質土（層厚0.1m）、第４層は灰色中粒砂～粗砂（層厚0.3m）、第５層は灰色粗砂（層厚0.15m）、第６層は灰色砂礫（層厚0.15～0.25m）、第７層は明黄褐色礫（地山）である。







1 ：盛土
2 ：灰オリーブ色（5Y6/2）砂質土
3 ：灰色（N4/0）粘土ブロック混じり灰色（7.5Y5/1）砂質土（撹乱）
4 ：灰色（5Y6/1）粗砂混じり砂
5 ：灰黄色（2.5Y6/2）砂　（流路2）
6 ：暗灰黄色（2.5Y5/2）砂　（流路2）
7 ：灰色（N4/0）粘土　（流路1）
8 ：にぶい黄色（2.5Y6/3）粗砂礫　（流路1）
9 ：明黄褐色（10YR7/6）粘土（地山）

図11　2003－67区

第3層は遺物包含層であり、土師器、瓦器が出土している。このことから第3層は、中世から近世にかけての耕土層と考えられる。第4層から第6層は粗砂を主体とする堆積層であり、東西方向の流路と考えられる。流路より遺物は出土していないため、埋没時期については不明である。本申請地が、流路埋没後に耕地として利用されたのは、中世以降であったと考えられる。（木嶋）

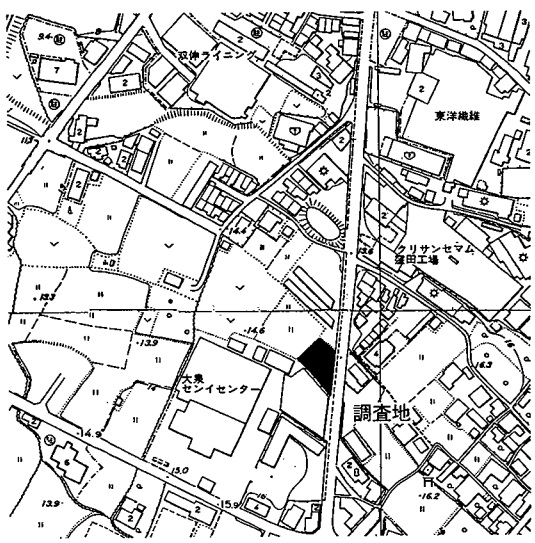
6．地蔵堂遺跡

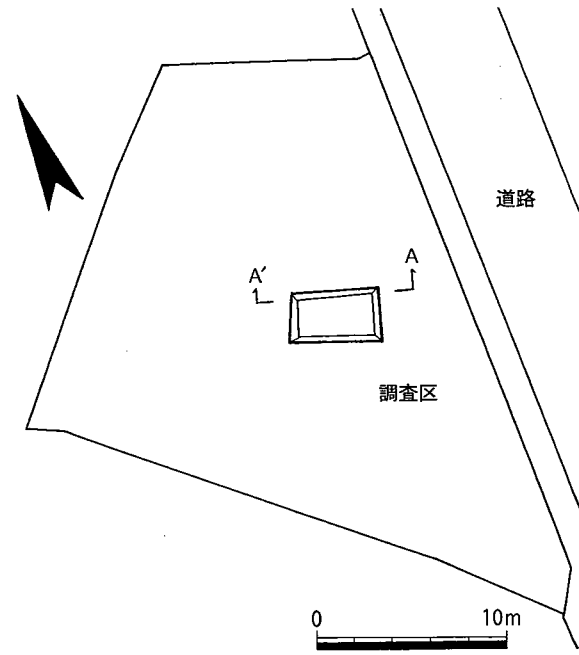
地蔵堂遺跡は、近木川左岸の中位段丘上、標高22～23mに位置し、その範囲は前方後円墳である地蔵堂丸山古墳、平安時代の寺院跡である地蔵堂廃寺を包括する。地蔵堂丸山古墳は、2002年（平成14年度）の調査により墳丘に伴う葺石及び埴輪列を検出した。出土した円筒埴輪から古墳は4世紀末に築造されたと考えられる。本遺跡では、中・近世の耕地跡、中世の素掘り井戸等を検出している。

2003－61区の調査　（図14）

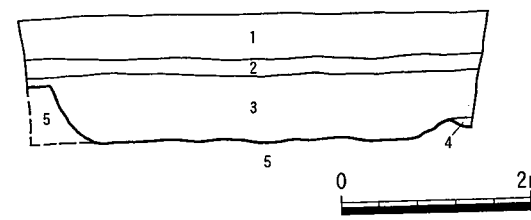
本調査は、地蔵堂119－2の一部、120－1の一部において実施した。調査地の小字名は「明神」である。調査は、申請地内において3.75㎡の調査区を設定して行った。

調査区の層序は、第1層が整地土（層厚0.15m）、第2層は淡黄色粘土（地山）である。地層堆積状況から判断して、地山面は削平されたと考えられる。地山面において遺構検出を行ったが、遺構は検出できなかった。遺物は出土していない。（三浦）





L=KBM



1：盛土
2：灰色（7.5Y4/1）土（旧耕土）
3：浅黄色（2.5Y7/3）粘土ブロック混じり灰オリーブ色（5Y5/2）砂質土
4：灰色（N5/0）砂質土（旧耕土）
5：明黄橙色（10YR6/6）粘土～シルト（地山）

図12　2004－4区

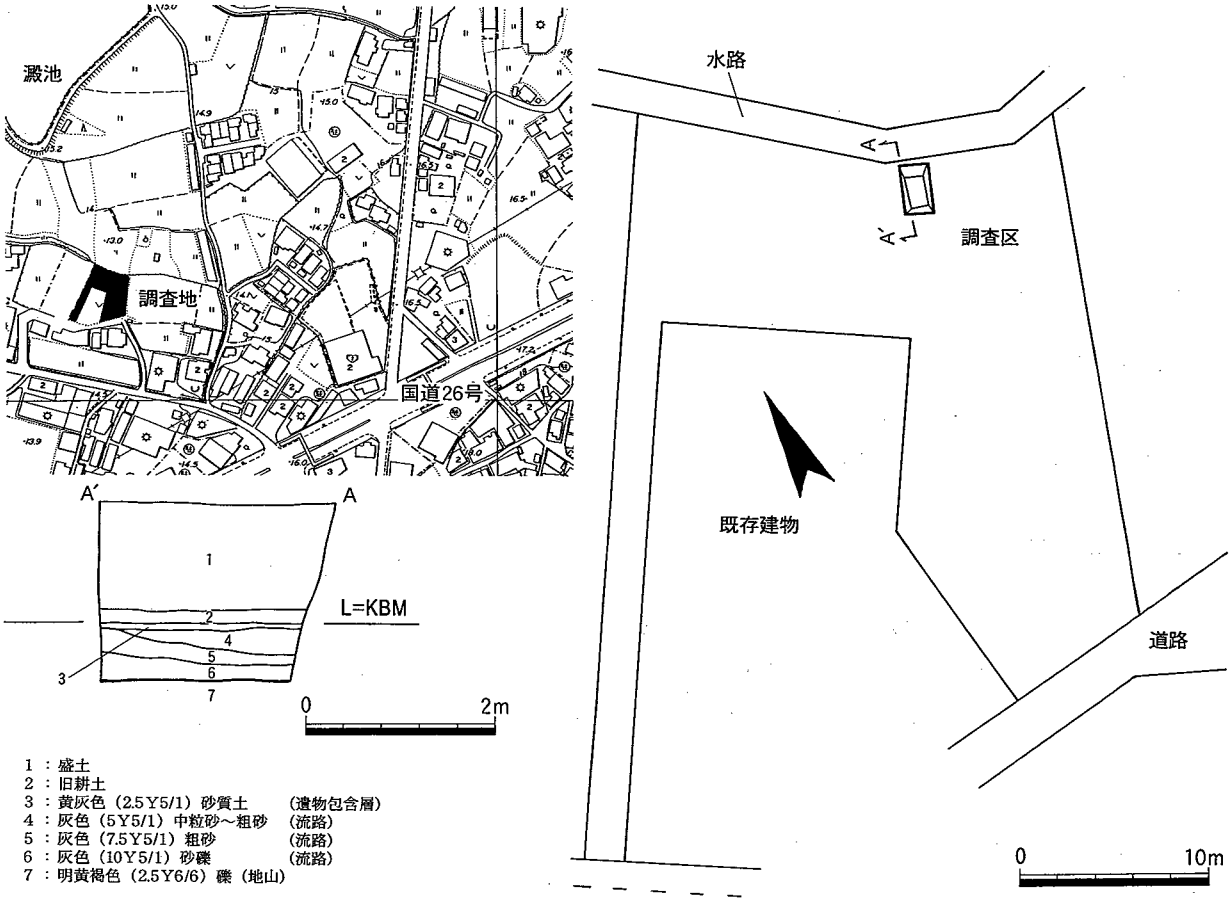


図13　2004－29区

2004－６区の調査　（図15・図版４）

本調査は、堤45－１において実施した。 調査は、申請地の浄化槽部分において４㎡の調査区を設定して行った。調査区の層序は、第１層が盛土（層厚0.45m）、第２層は撹乱（層厚1.5m）、第３層はオリーブ黒色土（層厚0.2～0.7m）、第４層は灰オリーブ色粘質土混じり灰色粘質土（層厚0.4m）、第５層は灰オリーブ色粘質土混じ

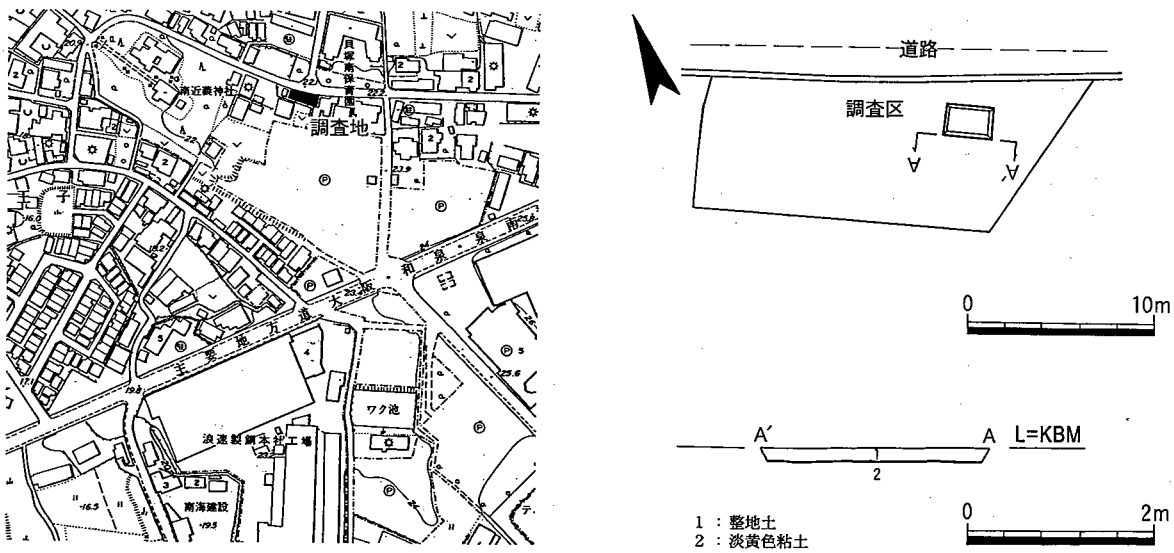


図14　2003－61区

り灰色粘質土（層厚0.1m）であり、第４層と比較して砂を多く含み、粘性が強い。第６層は灰色粘質シルト（層厚0.1m）、第７層は浅黄色粘土（地山）である。

第３～５層から遺物は出土していない。第６層より瓦器、土師器の細片が出土している。地山面において遺構検出を行い、木杭を検出したが、時期は不明である。

本申請地は、地形的に谷部にあたるものと考えられ、中世までは湿地状態であったと推測される。その後、この谷部は埋め立てられており、その層が第４・５層にあたるものと考えられる。

本申請地の北側には「新池」が存在し、またその周辺には「フケ」、「イケノ内」という字名が確認できることからも、池の周辺部にあたる本申請地は水はけの悪い土地であったものと考えられる。本申請地の西に位置する小学校において校舎建設及び建て替え工事に伴う発掘調査を行い、５世紀の円墳および方墳、13～14世紀の集落跡を検出している。これらの調査例により、本申請地においては、湿地であったためか古墳時代には積極的な開発は行われておらず、集落が形成される13世紀以降に耕地として利用されたものと考えられる。　（木嶋）

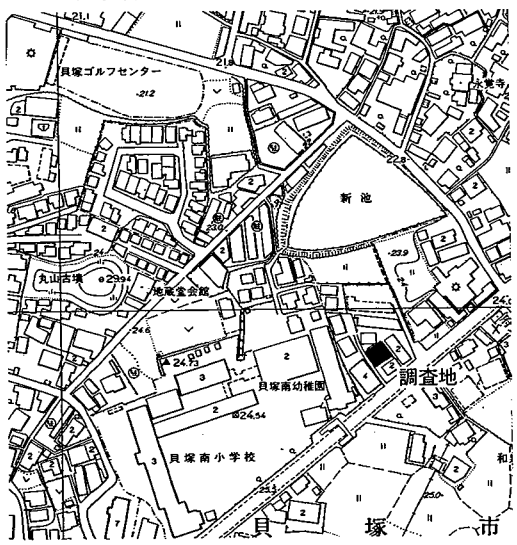
７．地蔵堂廃寺

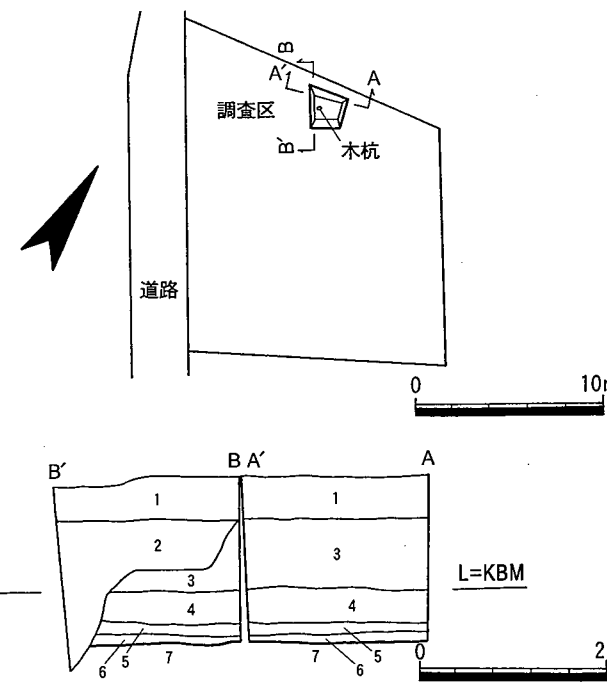
本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上、標高22～23mに位置し、平安時代後期の創建と考えられる地蔵堂廃寺として周知されている。本遺跡の北側には４世紀末の築造と推定される前方後円墳である地蔵堂丸山古墳があり、また本遺跡の西側には、昭和56年度（1981）、昭和60年度（1985）の小学校の建て替え工事に伴う調査により５世紀後半～末にかけての円墳２基、方墳１基を検出している。

2004－38区の調査　（図16）

本調査は、地蔵堂748－２において実施した。調査は、申請地内および浄化槽部分において２箇所の調査区（計37.75㎡）を設定して行った。

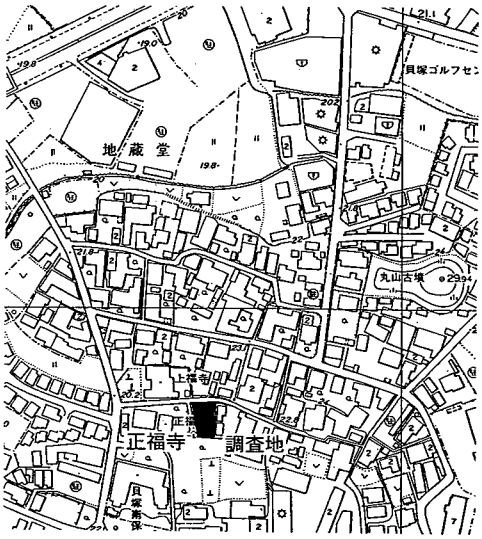
申請地は、造成による段差を設けており、申請地北側よりも申請地南側の方が一段高くなっている。さらに申請地は、土地の削平により地山面が露出している状態であり、遺物包含層は失われていた。調査区１・２においては地山面で遺構検出を行ったが、遺構は確認できなった。申請地は、平安時代に成立した正福寺の北側にあたる。申請地と正福寺の境内とは約0.6mの高低差があり、境内よりも申請地の方が高い。また申請地には「東門」という字名が残っている。　（木嶋）





1：盛土
2：攪乱
3：オリーブ黒色（7.5Y3/1）土
4：灰オリーブ色（7.5Y6/2）粘質土と灰色（7.5Y6/1）粘質土が混じる
5：灰オリーブ色（7.5Y6/2）粘質土と灰色（7.5Y6/1）粘質土が混じる（４層と比較して、砂を多少含み、粘質が強い）
6：灰色（5Y4/1）粘質シルト
7：浅黄色（5Y7/3）粘土（地山）

図15　2004－６区



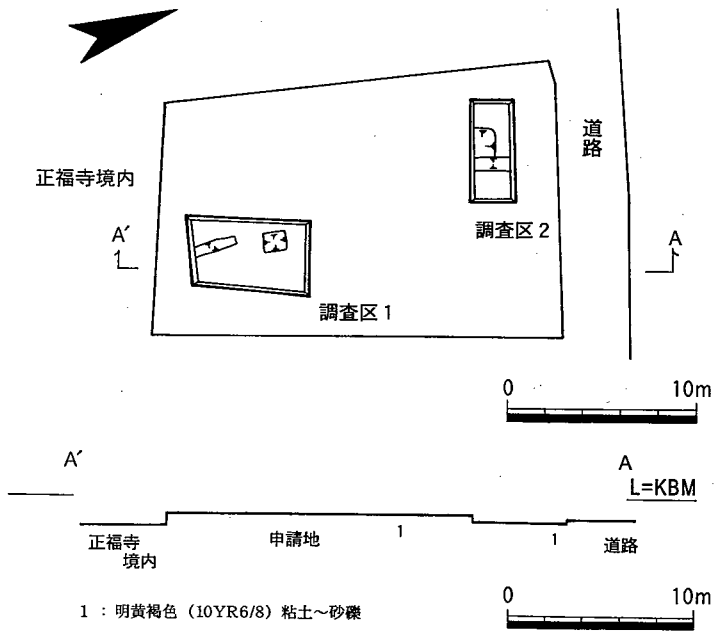


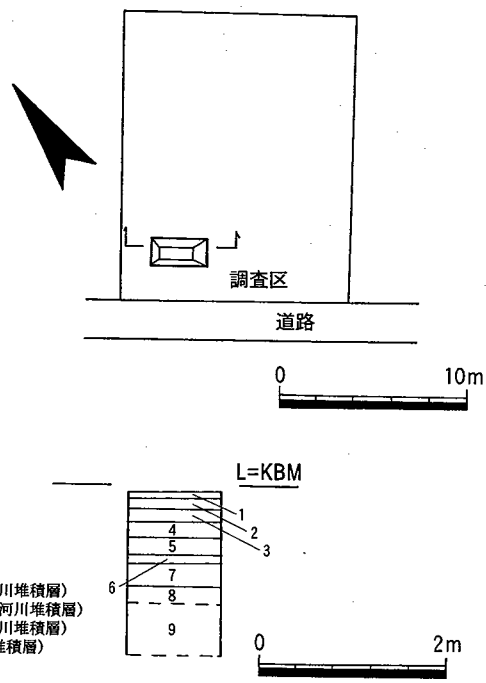
図16　2004－38区

8．久保遺跡

本遺跡は、津田川右岸の中位段丘上、標高16mに位置し、周知の遺跡として縄文時代、平安時代～近世にかけての集落跡と推定している。本遺跡の周辺には、弥生時代から古墳時代にかけての遺構を検出している土生遺跡、6～7世紀の掘立柱建物跡を検出している小瀬五所山遺跡が存在する。

2004－48区の調査　（図17・図版5）

本調査は、久保95－2において実施した。調査地の小字名は「露口」、周辺には「牛神」、「山ノ中」が認められる。調査は、申請地の浄化槽部分において4.5㎡の調査区を設定して行った。



1 ：表土
2 ：旧耕土
3 ：灰黄褐色（10YR6/2）土　（床土）
4 ：褐灰色（10YR6/1）礫混じり粗粒砂　（河川堆積層）
5 ：褐灰色（10YR6/1）粗粒砂　（河川堆積層）
6 ：灰黄褐色（10YR5/2）中粒砂　（河川堆積層）
7 ：にぶい黄褐色（10YR5/3）砂礫　（河川堆積層）
8 ：にぶい黄褐色（10YR5/3）礫　（河川堆積層）
9 ：暗灰黄色（2.5Y5/2）砂礫　（河川堆積層）

図17　2004－48区

調査区の層序は、1層が表土（層厚0.08m）、2層は旧耕土（層厚0.1m）、3層は灰黄褐色土（層厚0.12m）、4層は褐灰色礫混じり粗粒砂（層厚0.16m、3～5cm大の礫を多く含む）、5層は褐灰色粗粒砂（層厚0.18m、1cm大の礫を少量含む）、6層は灰黄褐色中粒砂（層厚0.1m）、7層はにぶい黄褐色砂礫（層厚0.25m、5cm大の礫を含む）、8層はにぶい黄褐色礫（層厚約0.2m、5～10cm大の礫を多く含む）、9層は暗灰黄色砂礫（層厚0.5m以上、5cm大の礫を多く含む）である。

4層以下は粗粒砂～砂礫を主体とする河川堆積層であり、湧水が著しいため地山の確認はできなかった。河川堆積層より遺物は出土していないため、河川の埋没時期については不明である。河川堆積層の観察により水流は西方向へ流れていたものと考えられる。（木嶋）

9．半田北遺跡

本遺跡は、津田川左岸、中位段丘上に位置する。周知の遺跡として中世の集落跡と推定している。本遺跡の周辺には半田遺跡、秦廃寺が存在する。白鳳期の寺院が建立されていたと推定される秦廃寺、隣接する半田遺跡等より古代の建物等の遺構や遺物を確認している。本遺跡においても奈良時代の遺物包含層や掘立柱建物の柱穴を2基検出している。

2004－50区の調査　（図18・図版6）

本調査は、半田248－1・－2・－7の一部において実施した。調査地周辺の小字名は「イバノマエ」、「畑ケ田」が認められる。調査は、申請地の浄化槽部分において6㎡の調査区を設定して行った。

調査区の層序は、第1層が盛土（層厚0.6m）、第2層は旧耕土（層厚0.12m）、第3層は灰黄褐色土（層厚0.1m）、第4層は黄灰色砂質土（層厚0.1m）、第5層は褐灰色粗粒砂混じり砂質シルト（層厚0.3m）、第6層は灰黄褐色小礫混じり砂質シルト（層厚0.4m）、第7層は灰黄褐色礫混じりシルト（層厚0.1m以上）である。

第3・4層は遺物包含層であり、瓦器、須恵器が出土している。第5～7層は小礫～礫が混入する砂質シルトを主体とする河川堆積層であり、遺物が出土していないため、埋没時期は不明である。また第7層以下については湧水が著しいため、堆積層の確認はできなかった。

今回検出した河川は、第5・6層の堆積状況により弱い水流もしくは滞水状態にあったものと思われ、この土地が耕地化するのは、15世紀以降と考えられる。（木嶋）

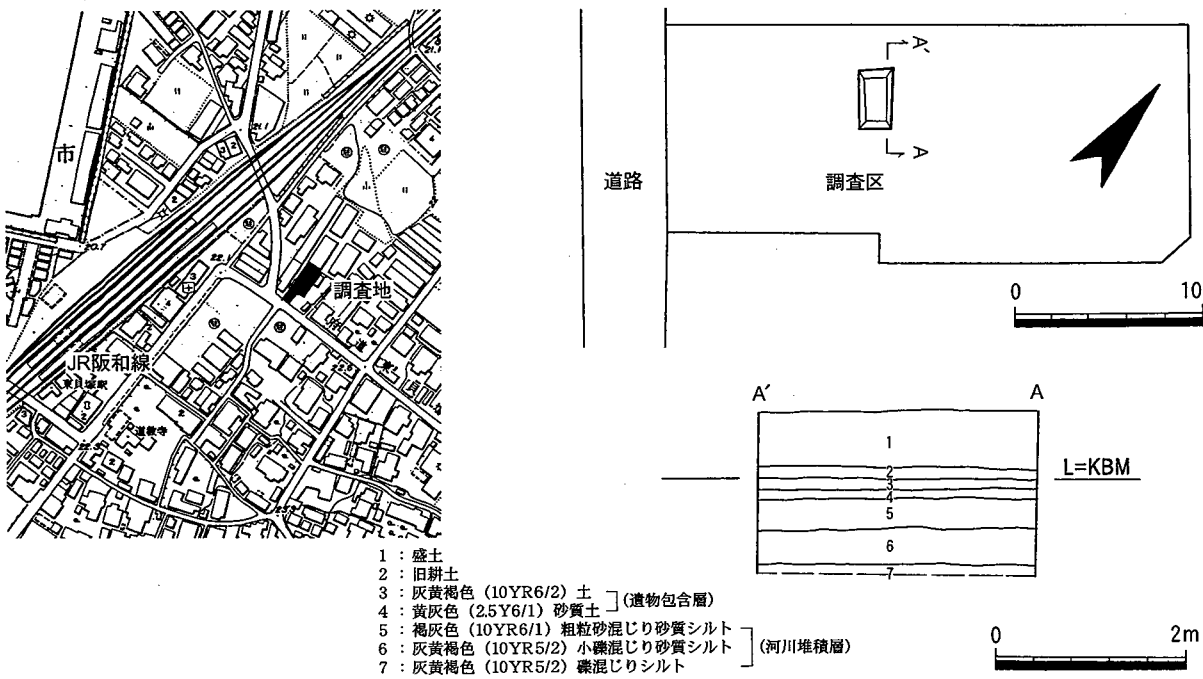


図18　2004－50区

10. 新井ノ池遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高約28mに位置する。周知の遺跡として弥生時代から古墳時代、中世にかけての散布地、集落跡と推定され、中世に熊野詣で賑わった熊野街道沿いに位置する。これまでの調査により平安時代の掘立柱建物跡や中・近世の耕地跡に伴う鋤溝、溝等を検出している。

2004－37区の調査　（図19・図版７）

本調査は、麻生中1059－１の一部において実施した。調査地の小字名は「橋ノ下」である。調査は、申請地の浄化槽部分において６㎡の調査区を設定して行った。

調査区の層序は、第１層が盛土（層厚１m）、第２層は旧耕土（層厚0.2m）、第３層はにぶい黄橙色土混じり黄灰色土（層厚0.1m）、第４層は褐灰色砂混じり粘質土（層厚0.15m）、第５層は褐灰色粘質土（層厚0.1m）、第６層は黄灰色砂質土（層厚0.1m）、第７層は黄灰色砂質シルト（層厚0.1m）、第８層は明黄褐色粘土（地山）である。

第３層から第７層は遺物包含層と考えられ、第４層より須恵器片、瓦片、第６・７層より瓦器片が出土している。これら遺物包含層は、中世の耕地層と考えられる。湧水が著しいため遺構検出はできなかった。　（木嶋）

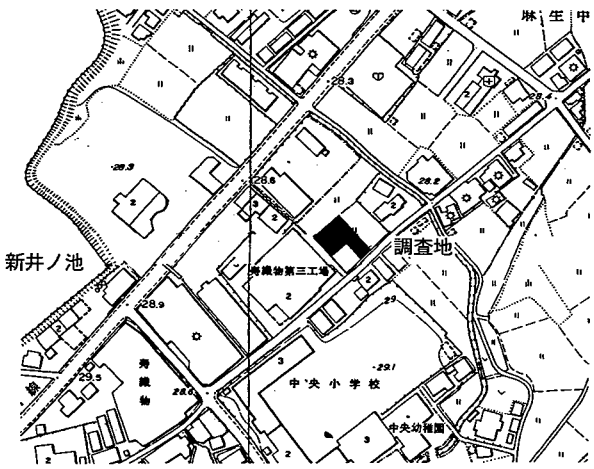
11. 秦廃寺

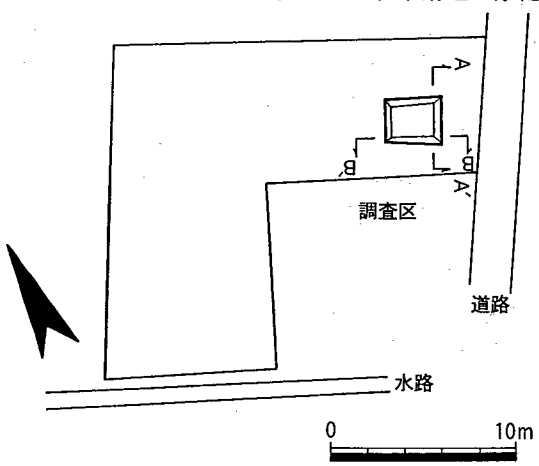
本遺跡は、津田川左岸の中位段丘上に位置する。古くより寺院跡として周知されており、付近の開墾により多数の瓦が発見されている。広隆寺（京都府）に所蔵されている『広隆寺末寺并別院記』によると、秦寺は天武天皇八年（680）十一月に秦勝賀佐枝等によって建立されたと記されている。

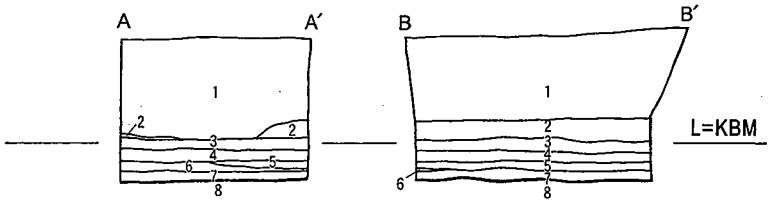
本遺跡の南西に位置する麻生中下代遺跡では、府営半田住宅の建て替え事業に伴い、大阪府教育委員会によって1996年（平成８年度）と2000年（平成12年度）に発掘調査が実施されている。この調査においては、古代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡等が検出された他、地山を削り出した土段状の遺構が検出されており、秦廃寺の南限と考えられる。

2003－65区の調査　（図20・図版８）

本調査は、半田731－６において実施した。調査地の小字名は「堂ノ垣外」である。調査は、申請地の浄化槽







1：盛土　（第１層）
2：旧耕土　（第２層）
3：にぶい黄橙色（10YR6/4）土混じり黄灰色（2.5Y6/1）土　（第３層）
4：褐灰色（10YR6/1）砂混じり粘質土　（第４層）
5：褐灰色（10YR5/1）粘質土　（第５層）
6：黄灰色（2.5Y5/1）砂質土　（第６層）
7：黄灰色（2.5Y5/1）砂質シルト　（第７層）
8：明黄褐色（10YR6/6）粘土（第８層・地山）

0　2m

図19　2004－37区

部分を中心に20㎡の調査区を設定して行った。

調査区の層序は、第1層が盛土および撹乱（層厚0.55m）、第2層は旧耕土（層厚0.1m）、第3層は灰黄褐色土（層厚0.15m）、第4層は黄灰色土（層厚0.05～0.15m）、第5層は明黄褐色粘質シルト（地山）である。第3層・第4層は遺物包含層であり、第3層より土師器、須恵器、瓦、第4層より土師器細片が出土している。第3層・第4層はマンガン斑紋が確認できることから、中世の耕地層と考えられる。地山面において遺構検出を行い、調査区西側で鋤溝を2条検出した。

前回、本調査区の北側隣地において確認調査を実施しており、土層の対応関係からみると、前回の調査で検出した古代の土層と考えられる褐灰色粘質土層を、本調査区では確認できなかったため、中世において土地の削平が行われたものと考えられる。

遺構については、前回の調査では、黒褐色粘質土を埋土とする方形の柱穴を検出しているが、本調査区では削平のためか鋤溝以外の遺構を検出することはできなかった。本調査区で出土した瓦片は小片であるため、詳細は不明であるが、少なくとも中世以降のものと判断され、秦廃寺に関連する遺物は出土していない。　（木嶋）

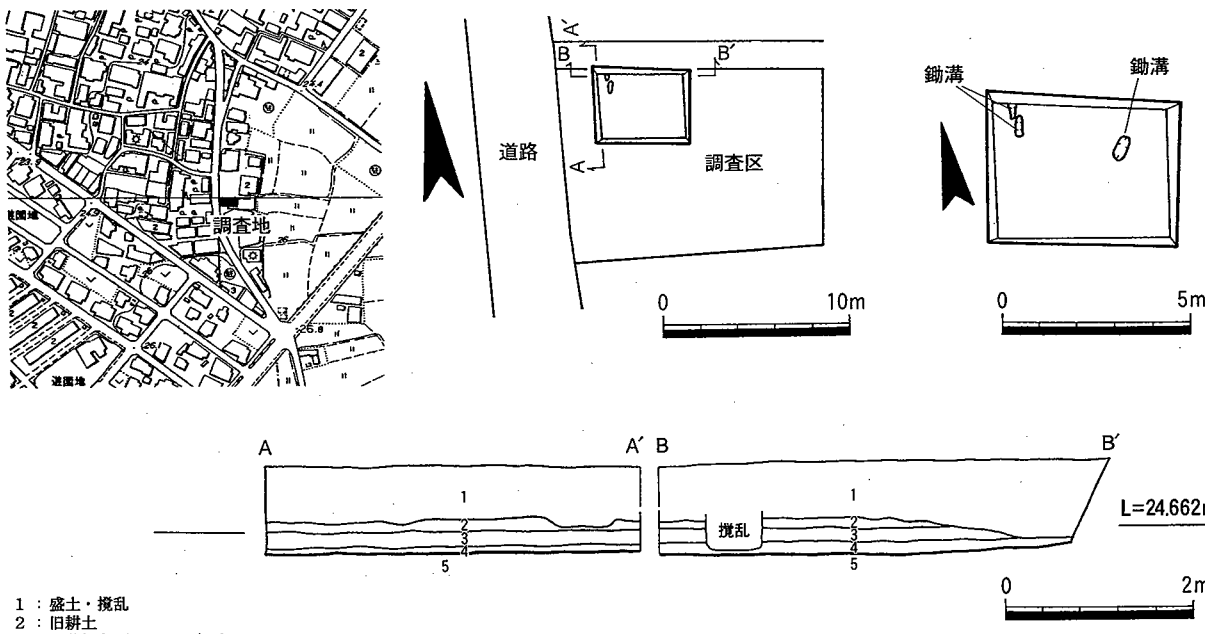
12. 麻生中出口遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高約28mに位置する。本遺跡は、中世に熊野詣で賑わった熊野街道沿いに位置し、中世の集落跡と推定される。周辺の遺跡としては、北には新井ノ池遺跡、南東には清児遺跡が存在する。新井ノ池遺跡は、これまでの調査により平安時代の掘立柱建物跡や中・近世の耕地跡に伴う鋤溝、溝等を検出している。清児遺跡は、これまでの調査より耕地跡や溝跡等を検出している。また㈶大阪府埋蔵文化財協会（現：㈶大阪府文化財センター）による1988年（昭和63年度）の調査では、平安時代の掘立柱建物跡、中世の柱穴群や耕作に伴う溝が検出されている。

2004－30区の調査　（図21）

本調査は、麻生中777－1他4筆において実施した。調査地の小字名は「溝添」である。調査は、申請地の浄化槽部分について3.75㎡の調査区を設定して行った。

調査区の層序は、第1層はコンクリート土間（層厚0.3m）、第2層は盛土および撹乱（層厚0.6m）、第3層は旧耕土（層厚0.25m）、第4層はオリーブ黄色粘質シルト（地山）である。遺物包含層は認められず、遺物は出



1：盛土・撹乱
2：旧耕土
3：灰黄褐色（10YR5/2）土
4：黄灰色（2.5Y6/1）土（マンガン斑含む）
5：明黄褐色（10YR6/6）粘質シルト（地山）

図20　2003－65区

土していない。湧水が著しいため、地山面での遺構検出はできなかった。

本申請地は、調査区壁面の断面観察により、地山は開発によって削平を受けており、遺物包含層は失われたものと考えられる。（木嶋）

13. 積善寺城跡

本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上に立地する。積善寺城は、雑賀・根来寺勢が永禄元（1558）年に岸和田三好氏との争いに備えて築いた城砦である。天正13（1585）年、豊臣秀吉の紀州攻めには、出原右京が大将を務め防戦した。本丸には30間（約60m）四方の濠をめぐらし、城域は貝塚中央病院から近木川を挟んだ対岸の貝塚市橋本一帯と推定される。平成15年度の調査では、積善寺城の濠と考えられる遺構を検出した。遺構は東西方向に掘られており、その規模は幅６ｍ以上、深さ1.8mである。遺構の堆積状況により落城後は、短期間に埋め立てが行なわれたと考えられる。

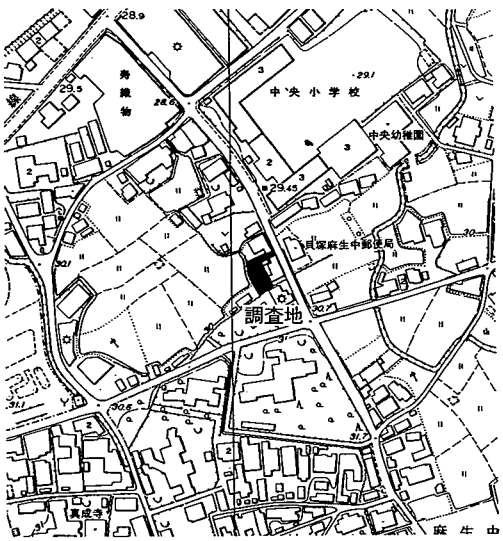
2004－26区の調査　（図22）

本調査は、橋本170－１において実施した。調査地の小字名は「中出」である。調査は、申請地の浄化槽部分において８㎡の調査区を設定して行った。

調査区の層序は、１層～３層がアスファルトおよび盛土（層厚0.35m）、４層は撹乱（層厚0.3m）、５層は灰色砂質土（層厚0.03m）、６層は焼土層（層厚0.05m）、７層は灰オリーブ色土（層厚0.15m）、８層は暗灰黄色土（層厚0.1m）、９層はにぶい黄褐色土（層厚0.08～0.3m）、10層は黄褐色小礫混じり粘質土（層厚0.2m）、11層は灰色粘土（層厚0.1m）、12層はにぶい黄色砂質土（地山）である。

５層は削平によりわずかに残存する近世以降の遺物包含層と考えられる。６層は焼土層であるが、面的には広がらない。７層はSD－１の断面であり、検出幅0.3m、深さ0.1mである。

SD－１は排水溝と考えられる。８層からは瓦片、陶磁器が出土している。９層は整地層であり、遺物は出土していない。10・11層は土坑（ＳＫ－１）の埋土である。このＳＫ－１は南側へも広がっており、瓦片、陶磁器が出土しているほか水甕片が出土していることから、おそらくは民家の便所跡と考えられる。SD－２は平面形状がL字に屈曲し、その規模は幅0.5m、深さ0.1m、埋土は褐灰色粘質土であり、排水溝と考えられる。ＳＫ－１およびSD－１・SD－２の時期は、出土した陶磁器により近世後半以降のものと考えられる。中世、近世前半



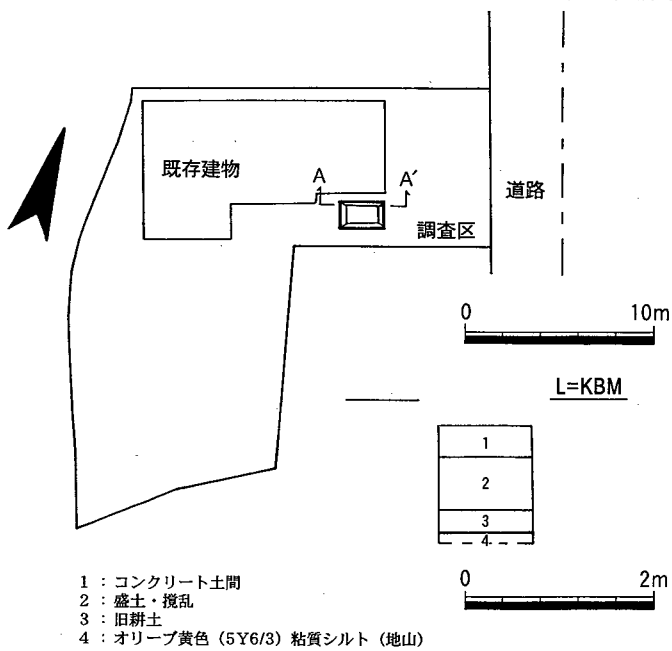
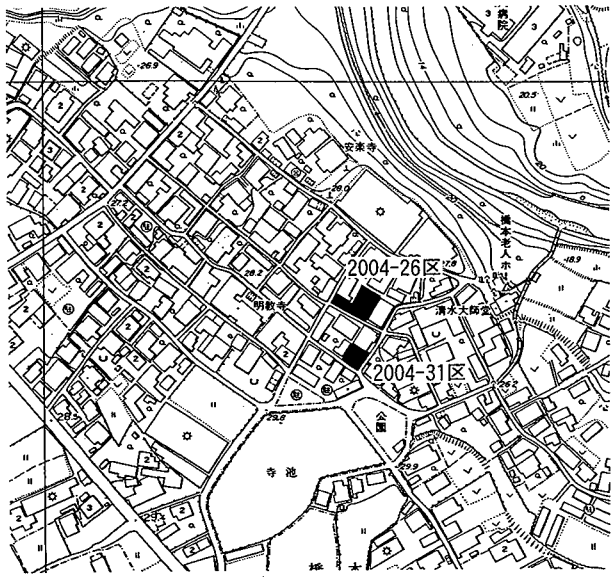
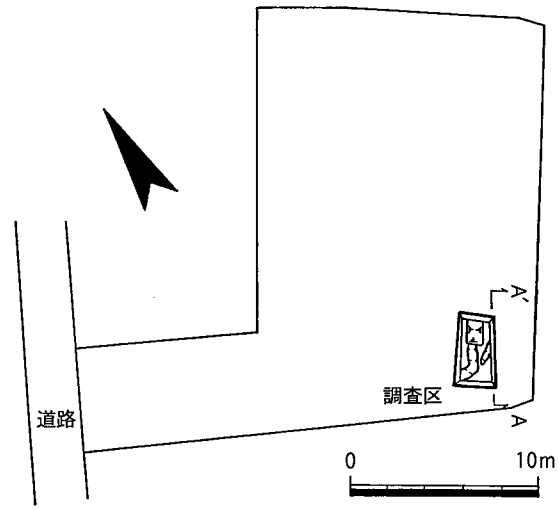
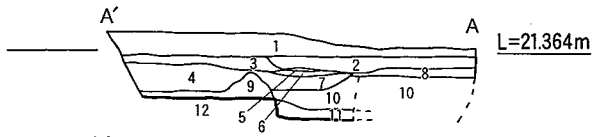
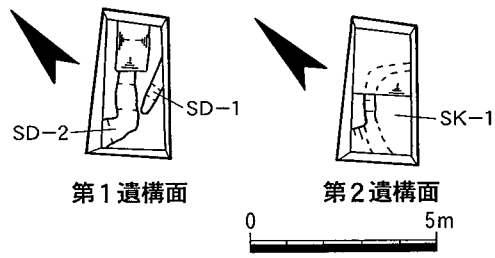


図21　2004－30区



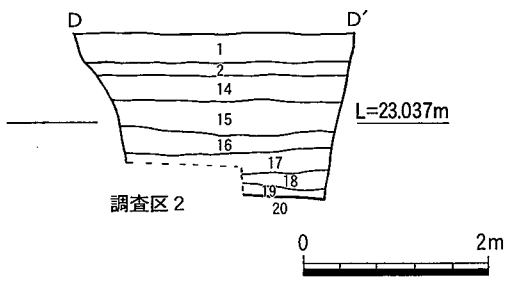


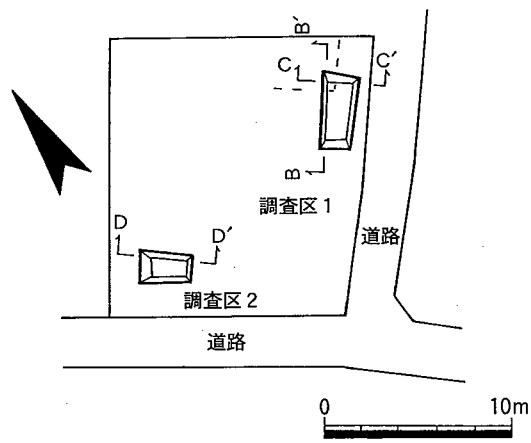




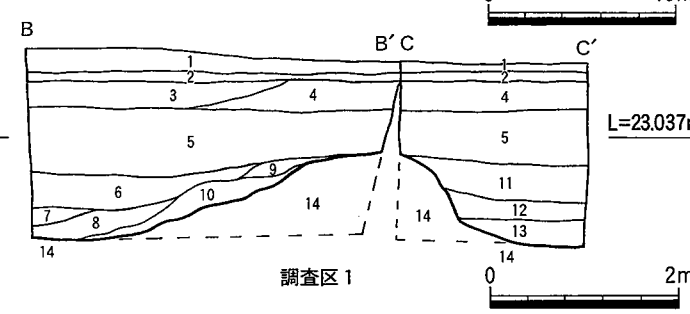
1：アスファルト
2：盛土
3：褐灰色（10YR6/1）土（盛土）
4：灰色（5Y6/1）土（撹乱）
5：灰色（5Y6/1）砂質土
6：オリーブ黒色（5Y3/1）土（炭化物、焼土含む）
7：灰オリーブ色（5Y5/2）土　（SD−1）
8：暗灰黄色（2.5Y5/2）土
9：にぶい黄褐色（10YR5/4）土　（整地層）
10：黄褐色（2.5Y5/3）小礫混じり粘質土　（SK−1）
11：灰色（5Y5/1）粘土
12：にぶい黄色（2.5Y6/4）砂質土（地山）

2004-26区





1：盛土　（第１層）
2：盛土２　（第１層）
3：撹乱　（第１層）
4：灰黄色（2.5Y6/2）小礫混じり土　（第２層・濠理土）
5：暗灰黄色（2.5Y5/2）礫混じり土　（第３層・濠理土）
6：にぶい黄橙色（10YR6/4）土・小礫混じり褐灰色（10YR6/1）粘質土（第４層・濠理土）
7：灰黄褐色（10YR6/2）粘質土　（第４層・濠理土）
8：灰黄褐色（10YR6/2）土・小礫混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土　（第４層・濠理土）
9：灰色（5Y5/1）礫混じり粘質土　（第５層・濠理土）
10：褐灰色（10YR5/1）粘質土　（第５層・濠理土）
11：にぶい黄褐色（10YR5/3）礫混じり粘質土（第４層・濠理土）
12：にぶい黄褐色（10YR5/3）土混じり褐灰色（10YR5/1）土　（第４層・濠理土）
13：褐灰色（10YR5/1）礫混じり土　（第４層・濠理土）
14：灰黄色（2.5Y6/2）土　（第２層・濠理土）
15：暗灰黄色（2.5Y5/2）土　（第３層・濠理土）
16：にぶい黄褐色（10YR5/4）土混じり褐灰色（10YR5/1）粘質土（第４層・濠理土）
17：にぶい黄橙色（10YR6/4）土・小礫混じり黄灰色（2.5Y6/1）粘質土（第４層・濠理土）
18：にぶい黄褐色（10YR5/3）小礫混じり粘質シルト（第４層・濠理土）
19：褐灰色（10YR5/1）粘質土　（第６層・濠跡）
20：黄褐色（10YR5/6）砂礫〜礫　（第７層・地山）



2004-31区

図22　2004−26区、2004−31区

の遺構は認められなかった。

本申請地より西へ100m地点において平成15年度に確認調査を行い、積善寺城の濠（北西－南東方向）を検出しており、本申請地はその延長上にあたると想定したが、今回の調査区においては検出することができなかった。濠が存在するとすれば、申請地の北側に位置する可能性がある。（木嶋）

2004－31区の調査　（図22・図版９）

本調査は、橋本176－４、－５、－７、－８において実施した。調査地の小字名は「小名城」である。調査は、申請地内と浄化槽部分において２箇所の調査区（計12.5㎡）を設定して行った。

調査区１の層序は、１・２層が盛土（層厚0.2～0.3m、第１層）、３層は撹乱（層厚0.25m、第１層）、４層は灰黄色小礫混じり土（層厚0.3m、第２層）、５層は暗灰黄色礫混じり土（層厚0.5～0.7m、第３層）、６層はにぶい黄橙色土・小礫混じり褐灰色粘質土（層厚0.35m、第４層）、７層は灰黄褐色粘質土（層厚0.18m、第４層）、８層は灰黄褐色土・小礫混じり褐灰色粘質土（層厚0.2m、第４層）、９層は灰色礫混じり粘質土（層厚0.1m、第５層）、10層は褐灰色粘質土（層厚0.25m、第５層）、11層はにぶい黄褐色礫混じり粘質土（層厚0.4m、第４層）、12層はにぶい黄褐色土混じり褐灰色土（層厚0.2m、第４層）、13層は褐灰色礫混じり土（層厚0.25m、第４層）である。

調査区２の層序は、14層は灰黄色土（層厚0.25m、第２層）、15層は暗灰黄色土（層厚0.35m、第３層）、16層はにぶい黄褐色土混じり褐灰色粘質土（層厚0.2m、第４層）、17層はにぶい黄橙色土・小礫混じり黄灰色粘質土（層厚0.2m、第４層）、18層はにぶい黄褐色小礫混じり粘質シルト（層厚0.15m、第４層）、19層は褐灰色粘質土（層厚0.1m、第６層）、20層は黄褐色砂礫～礫（地山、第７層）である。

第１層は盛土・撹乱（層厚0.6m）、第２層～第６層は積善寺城跡の濠跡の埋土と考えられる。第２層～第４層は濠を人為的に埋めた層と考えられ、第４層は第２・３層の土質に比べ、締まりがない。第５・６層は濠の掘削後に堆積した層と考えられる。第５・６層は第４層と比較すると粘性が強く、土質が異なる。第４・５層より瓦片が数点出土している。第７層は砂礫層を主体とする地山である。

調査区１の北隅部において地山が掘り残されていることから、積善寺城跡の濠の南東隅にあたるものと考えられる。つまり調査区１の西壁面において検出したのは東西方向の濠、北壁面において検出したのは南北方向の濠に該当するものと考えられる。また調査区２の土層は、調査区１西壁面の堆積層とほぼ対応することから、東西方向の濠跡の規模は幅13m以上となる。もしくは調査区１と調査区２の濠が別である場合、近接した二重の濠を設けていた可能性も考えられる。調査区１検出の濠の深さは1.7m、調査区２検出の濠の深さは1.3mである。南北方向の濠の規模は、深さ1.7m、濠の幅については南東方向に広がるため、詳細は不明である。

平成15年度の調査では、本申請地より北西方向へ130mの地点において、幅６m以上、深さ1.8mの東西方向の濠跡を検出している。今回検出した濠跡と平成15年度に検出した濠跡はその位置関係により、二重の濠の存在が明らかとなった。（木嶋）

14. 名越遺跡

名越遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高32～38mに位置する。周知の遺跡として中世の散布地に推定しており、これまでの調査により耕地跡や溝跡等を検出している。本遺跡の西には名越西遺跡が存在し、古墳時代前期の溝を検出したほか、弥生時代中期以降の土器が出土している。

2003－63区の調査　（図23・図版10）

本調査は、清児481－４において実施した。調査地の小字名は「横枕」である。調査は、申請地内において５㎡の調査区を設定して行った。

調査区の層序は、第１・２層が盛土および撹乱、第３層は旧耕土、第４層は黄灰色土、第５層はにぶい黄橙色粘質シルト（地山）である。

第４層は遺物包含層であるが、後世に削平を受けている。第４層より土師器、須恵器、瓦器の各破片が出土しており、中世の耕地層と考えられる。第５層上面において遺構検出を行い、東西方向の鋤溝を検出した。鋤溝の規模は幅0.2m、深さ0.08m、埋土は褐灰色粘質土であり、遺物は出土していない。

工事主体者の話によると、申請地南側の道路にはかつて用水路が設けられていたようであり、今回検出した鋤溝はその用水路と並行するものと考えられる。（木嶋）

2003－66区の調査　（図24・図版11）

本調査は、清児520、522、1059、1315において実施した。申請地の小字名は「上垣外上畝町」であり、周辺には「地蔵前」が認められる。調査は、申請地の浄化槽部分を中心に20㎡の調査区を設定して行った。

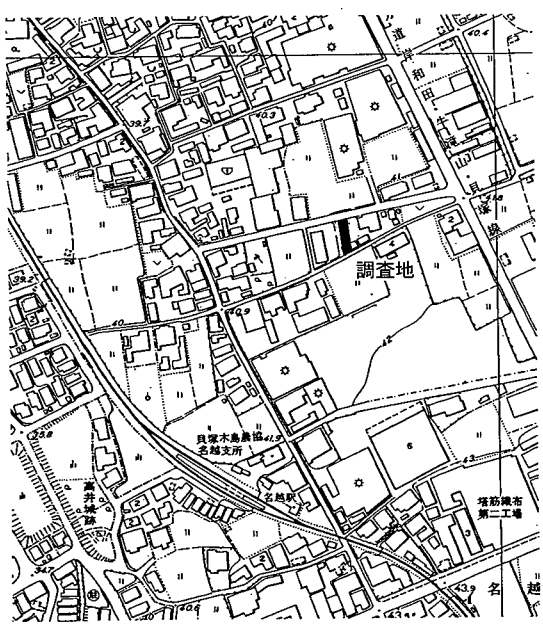
調査区の層序は、第１層は盛土（層厚0.25m）、第２層は暗灰色粘質土（層厚0.1m）、第３層は灰色粘質土（層厚0.1m）、第４層は黄褐色砂礫（地山）である。

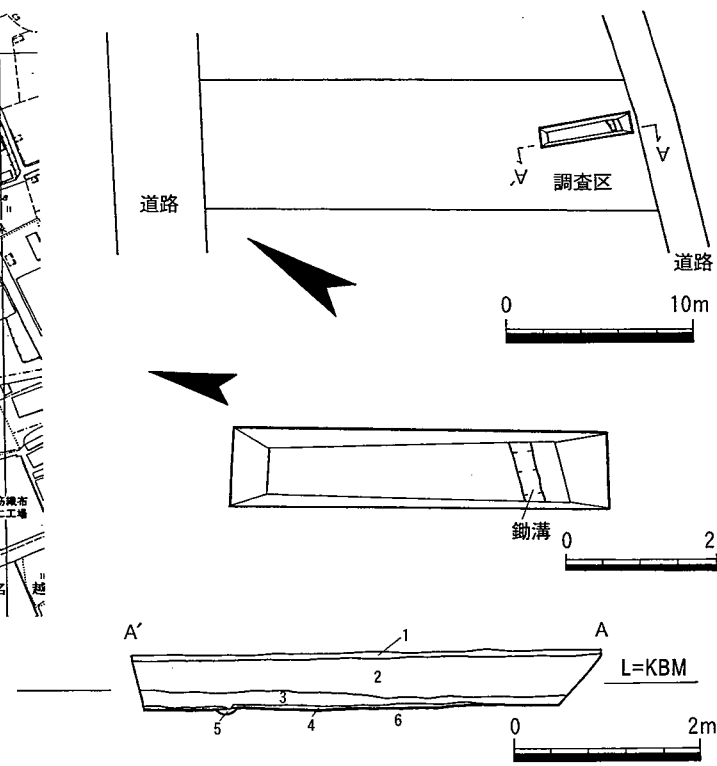
第２層は旧耕土であり、ガラス片、瓦片が出土している。第３層より遺物は出土していないため、時期は不明である。調査区の壁断面および地山面において溝２条を検出した。SD－１の規模は、検出幅0.6m、深さ0.3m、埋土はにぶい黄橙色ブロック土混じり灰色砂質土である。遺物は出土していない。SD－１は、第２層より掘り込まれており、溝の時期は近代以降に設けられたものと考えられる。

SD－２の規模は、検出幅2m、深さ0.2mである。埋土は灰色砂質土～粘土であり、５層より木板片が混入しており、これら木板片は木樋の可能性がある。SD－２の時期は、遺物が出土していないため時期は不明であるが、第３層より掘り込まれていること、土質等の観察により近世以降に設けられたものと考えられる。（木嶋）

15. 三ケ山西遺跡

本遺跡は、近木川右岸に位置し、標高70mの段丘上に立地する。本市による1999年（平成11年度）の調査では、中世の遺物包含層より縄文土器が混在しており、調査区の周辺において縄文期の遺物包含層および遺構が存在している可能性が高い。また㈶大阪府埋蔵文化財協会（現：㈶大阪府文化財センター）の調査では、中世の掘立柱建物跡等の遺構が検出されている。





1：盛土（第１層）
2：盛土・撹乱（第２層）
3：旧耕土（第３層）
4：黄灰色（2.5Y6/1）土（第４層・遺物包含層）
5：褐灰色（10YR6/1）粘質土（鋤溝）
6　にぶい黄橙色（10YR6/4）粘質シルト（第５層・地山）

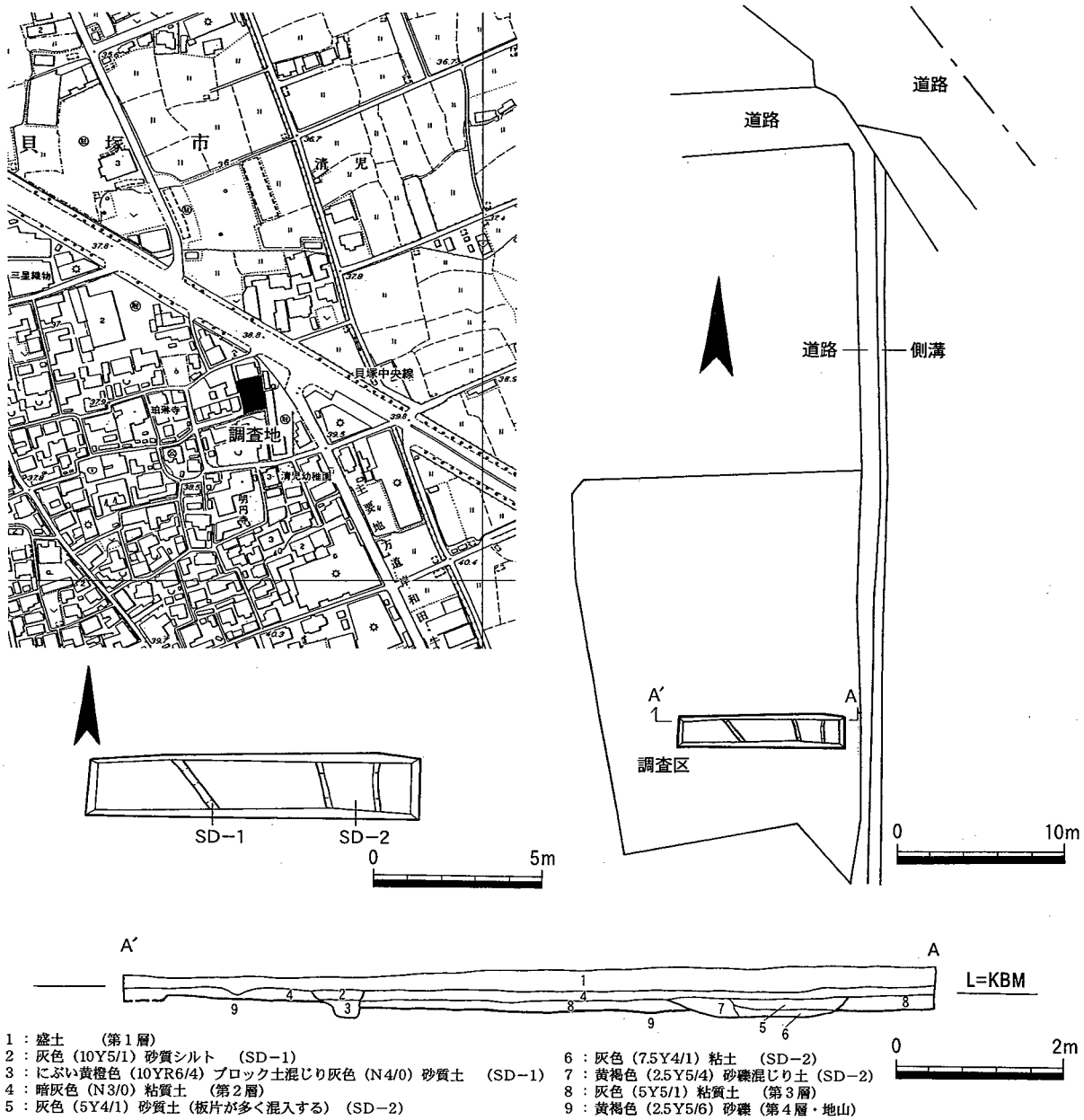
図23　2003－63区

2004－18区の調査　（図25・図版12）

本調査は、三ツ松825－１、827－３、2943－１において実施した。調査地の小字名は「宮ノ下」、「宮ノウチ」であり、地元の人の話によると、以前、稲荷を祀った堂が安置されていた。調査は、申請地内および浄化槽部分について２箇所の調査区（計10.5㎡）を設定して行った。

調査区１・２の基本層序は、第１層は現耕土、床土（１層・２層：層厚0.2m）、第２層は灰オリーブ色土（９層・13層：層厚0.25m）、第３層は黄灰色土～砂質土（10層・11層・14層：層厚0.15m）、第４層はにぶい黄色粘質シルト（12層・15層：地山）である。

第３層は遺物包含層であり、調査区２の14層において瓦器、土師器片が出土している。調査区１の10層・11層からは遺物は出土していないが、14層と対応するものと考えられる。地山面において遺構検出作業を行ったが、撹乱等により遺構は検出できなかった。本申請地について地元の人の話によると、もとは大正期に建てられた屋敷地であった。今回、調査区を設定した場所は耕地にあたり、近年になって盛土を行ったようである。盛土は、基本層序の第２層にあたるものと考えられる。また近年まで用水路が存在しており、申請地の南方向から北東方



1：盛土　（第１層）
2：灰色（10Y5/1）砂質シルト　（SD－1）
3：にぶい黄橙色（10YR6/4）ブロック土混じり灰色（N4/0）砂質土　（SD－1）
4：暗灰色（N3/0）粘質土　（第２層）
5：灰色（5Y4/1）砂質土（板片が多く混入する）（SD－2）
6：灰色（7.5Y4/1）粘土　（SD－2）
7：黄褐色（2.5Y5/4）砂礫混じり土（SD－2）
8：灰色（5Y5/1）粘質土　（第３層）
9：黄褐色（2.5Y5/6）砂礫（第４層・地山）

図24　2003－66区

向へ設けられたものである。用水路の深さは1m以上であり、埋土は黒褐色～黒色土であり、石組に使用された石やレンガが出土している。調査区1の6層や調査区2の撹乱については、複数の場所で耕地を掘り起こしたようであり、6層よりビニール袋等を確認している。

申請地は、近・現代において盛土や撹乱等の開発が行われていたが、調査区2にて中世の遺物包含層が存在することを確認することができた。この遺物包含層は土質等により中世の耕地層と考えられる。（木嶋）

2004－22区の調査　（図25・図版13）

本調査は、三ツ松823－10、825－5、826－5において実施した。申請地の小字名は「宮ノ上」である。調査は、申請地の浄化槽部分において6㎡の調査区を設定して行った。

調査区の層序は、1・2層は盛土（層厚0.45m）、3層は旧耕土（層厚0.15m）、4層は撹乱（層厚0.15m）、5・6層は用水路埋土（層厚0.45m以上）、7層は黄灰色土（層厚0.1m）、8層は黄褐色粘土（地山）である。

地山面において遺構検出を行ったが、撹乱（4層）等により遺構は確認できなかった。調査区の西側において用水路の一部（5・6層）を検出し、30～40cm大の石で構成される石組を伴う。この用水路は、2004－18区において検出した用水路に対応するものと考えられる。今回検出した用水路（6層）からはビニール袋等を確認している。申請地は、大正期に建てられた屋敷地（2004－18区も含む）であり、今回の調査区で検出した盛土（2層）は、この屋敷の廃材を含むものと考えられる。7層より遺物は出土していないが、前回調査（2004－18区）の第3層に類似していることから、中・近世の遺物包含層と考えられる。遺物包含層については、前回の調査区においても土師器、瓦器片が出土しており、同屋敷地の耕地部分においては、中世・近世の遺物包含層が残存している可能性が高いと考えられる。（木嶋）

16. 三ツ松北垣外遺跡

本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上、標高55～57mに位置する。周知の遺跡として、中世の集落跡と推定している。平成15年度の調査では、平安時代、中世の遺物包含層を確認し、地山面を削り出したアゼの痕跡や溝等を検出しており、平安時代において土地開発が行われていたものと推測される。近年、本遺跡の南においては宅地化が進んでおり、また南東側に位置する三ケ山西遺跡からは中世の耕地跡や遺物包含層を確認している。

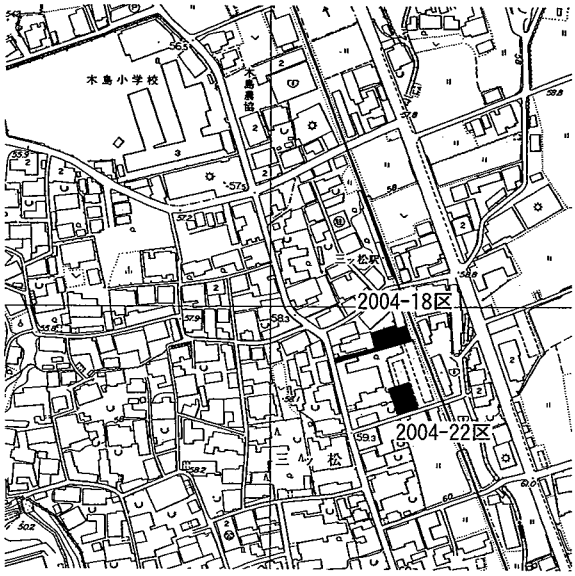
2004－57区の調査　（図26）

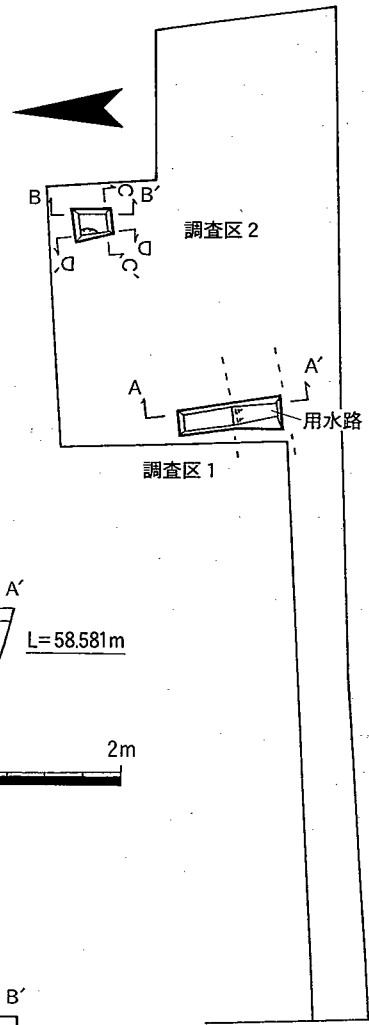
本調査は、三ツ松1023－4の一部にて実施した。調査は、申請地内において調査区（7.5㎡）を設定し行った。

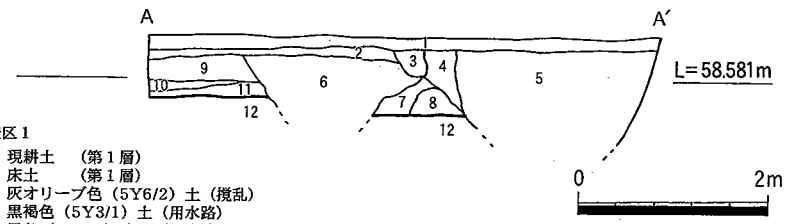
調査区の層序は、第1層は盛土および撹乱（層厚0.1～0.6m）、第2層は床土（層厚0.05m）、第3層は灰黄褐色土（層厚0.2m）、第4層は灰黄色砂質土（層厚0.18m）、第5層は暗灰黄色粘質土（層厚0.18m）、第6層は灰黄褐色砂礫混じり土（層厚0.15m）、第7層は黒褐色砂礫混じり粘土（層厚0.15～0.3m）、第8層は褐灰色礫混じり粘土（層厚0.2m）、第9層は褐灰色砂礫混じり粘土（層厚0.3～0.5m）、第10層はにぶい黄色シルト（地山）である。

第3層から第6層は中世の耕土層と考えられ、第5層より瓦器が出土している。調査区壁面において第5層上面より掘り込まれた鋤溝の断面を検出した。第7層から第10層は谷状地形に堆積したものである。堆積層は、砂礫が混入する粘土を主体とし、遺物が出土していないため埋没時期については不明である。

本申請地の南隣地の調査（平成14年度）では、砂礫が混入する粘質土～粘土を主体とする堆積層を検出している。この堆積層は、今回検出した堆積層と類似しており、谷状地形が南方向にのびるものと推測される。平成14年度の調査においても遺物は出土していない。本申請地の東側の調査（平成15年度）では、平安時代から中世の遺物包含層を確認したが、谷状地形は検出していない。これらの調査事例により申請地周辺においては、平安時代より土地開発が開始されている。本申請地が耕地化する時期は中世と推測され、平安時代には谷状地形は完全に埋没していなかった可能性がある。（木嶋）

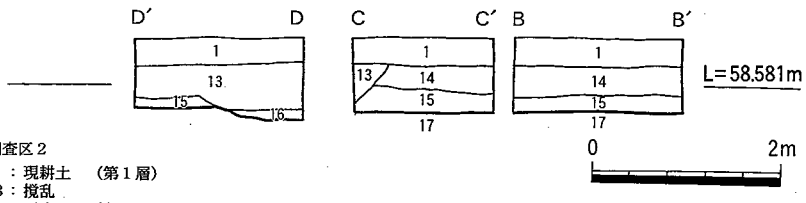






調査区1

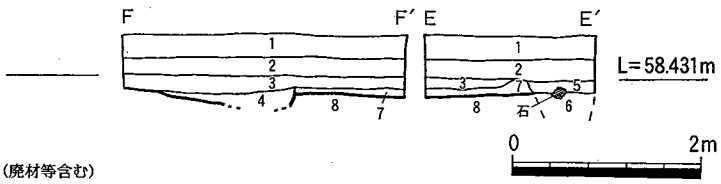
1：現耕土　（第1層）
2：床土　（第1層）
3：灰オリーブ色（5Y6/2）土（撹乱）
4：黒褐色（5Y3/1）土（用水路）
5：黒色（5Y2/1）土　（用水路）
6：灰色（5Y5/1）土　（撹乱）
7：にぶい黄色（2.5Y6/3）礫混じり粘質土　（撹乱）
8：灰色（7.5Y5/1）土　（撹乱）
9：灰オリーブ色（5Y5/2）土　（第2層）
10：黄灰色（2.5Y5/1）砂質土　（第3層）
11：黄灰色（2.5Y5/1）土　（第3層）
12：にぶい黄色（2.5Y6/4）粘質シルト（第4層・地山）



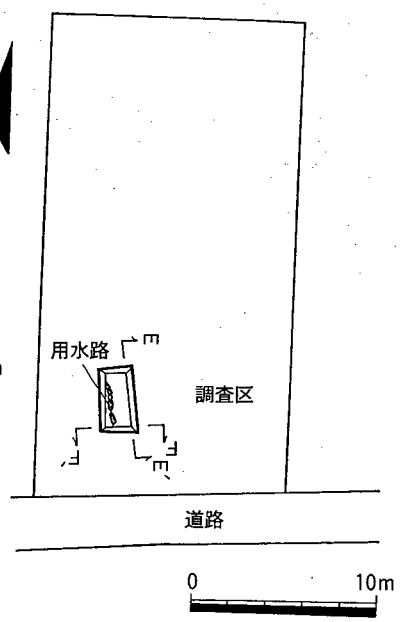
調査区2

1：現耕土　（第1層）
13：撹乱
14：灰オリーブ色（5Y5/2）土（第2層）
15：黄灰色（2.5Y5/1）土　（第3層）
16：黄灰色（2.5Y4/1）礫混じり粘質土
17：にぶい黄色（2.5Y6/4）粘質シルト（第4層・地山）

2004-18区



1：盛土
2：盛土2（廃材等含む）
3：旧耕土
4：灰色（N4/0）土（撹乱）
5：暗緑灰色（5G4/1）土　（用水路）
6：暗緑灰色（5G3/1）粘土（用水路）
7：黄灰色（2.5Y5/1）土
8：黄褐色（2.5Y5/4）粘土（地山）



2004-22区

図25　2004－18区、2004－22区

17. 木積観音寺跡

本遺跡は、近木川北岸の中位段丘上、標高約86mに位置する。周知の遺跡として、平安時代～中世の寺院跡と推定される。本遺跡包蔵地内には俗に釘無堂とも呼ばれる国宝の観音堂が所在する。平成4年度の調査において中・近世の遺構を検出している。特に寺院の建物や区画に関係したと推測される溝を検出している。

2003－69区の調査　（図27・図版14）

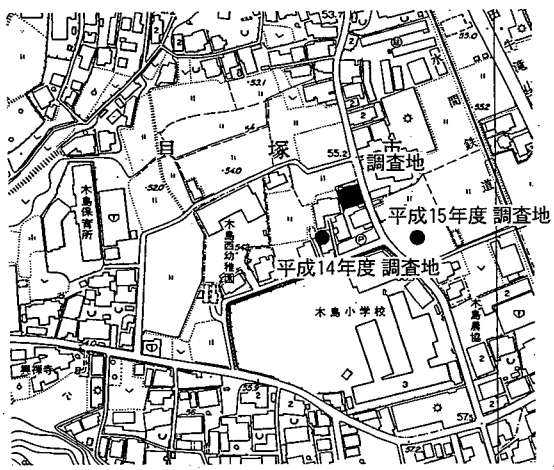
本調査は、木積802－1、803－1の一部において実施した。調査地周辺の小字名に「丹後垣内」が認められる。調査は、申請地内で2箇所の調査区（計13㎡）を設定して行った。

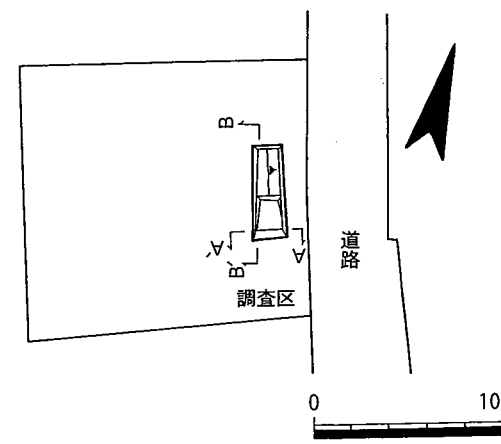
調査区1の層序は、1層～3層が盛土、撹乱、旧耕土（層厚0.2～0.6m）、4層は黄褐色土混じりにぶい黄褐色土（SK－1・層厚0.7m）、5層は灰黄褐色土（層厚0.3m）、6層は灰黄褐色礫混じり土（層厚0.15m）、7層は暗灰黄色粘質土（SD－1・層厚0.1m）、8層はにぶい黄色シルト（地山）である。5・6層、SK－1、SD－1からは遺物は出土していない。6層上面において石列を検出した。SD－1と石列は近世の遺構と考えられる。

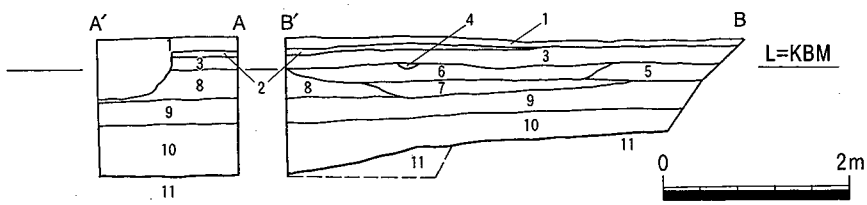
調査区2の層序は、9層は灰黄褐色砂質土（層厚0.1m）、10層は黄灰色砂礫土（SK－2・層厚0.55m）、11層は暗灰黄色粘質土（層厚0.2m）、12層はにぶい黄橙色粘質シルト（地山）である。SK－2は、石、瓦とともに人為的に埋められている。遺物は丸瓦の他、陶磁器が出土しており、時期は近世後半以降に埋没したものと考えられる。SK－1・2は埋没状況が類似しており、同時期のものと考えられる。5層と11層は対応すると考えられ、SK－2の遺物により近世後半以前のものと考えられる。

本申請地の東側には孝恩寺があり、境内に国宝 観音堂があり、神亀3（726）年に行基によって建立されたと伝わる観音院のものである。平成4年度に実施した孝恩寺境内での発掘調査成果では、中世の遺構を多数検出している。同境内で実施した平成13年度の発掘調査では、中世の耕地層を検出するが、寺院に関連する遺構を確認することはできなかった。本申請地においては、中世の遺構を検出していないことから、近世に削平が行われていたと考えられる。

（木嶋）

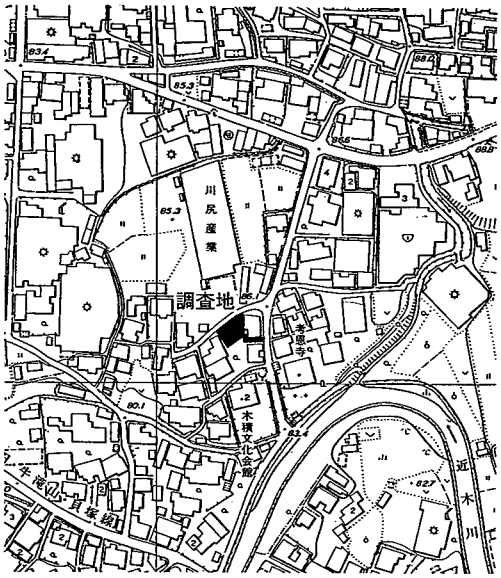


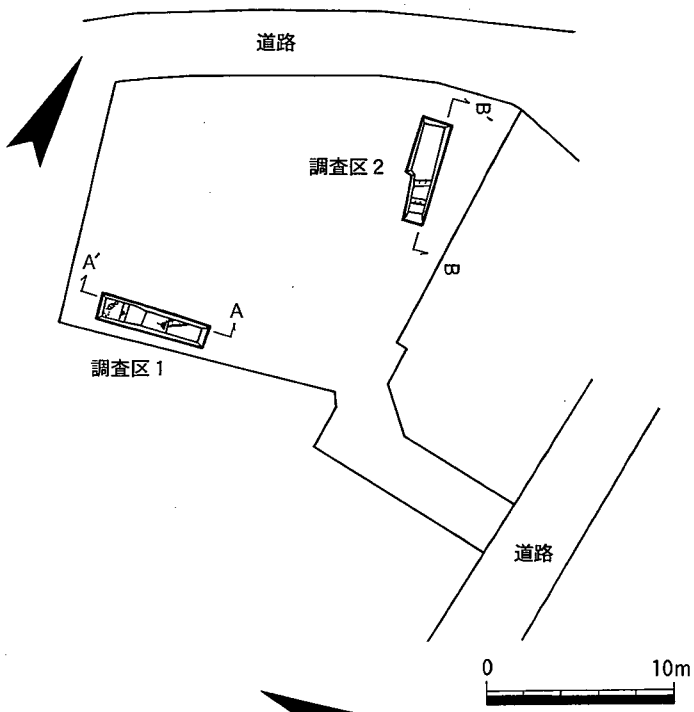


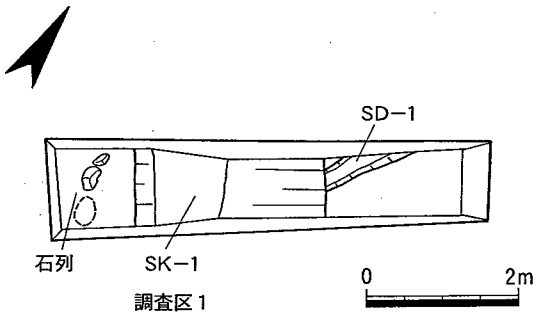


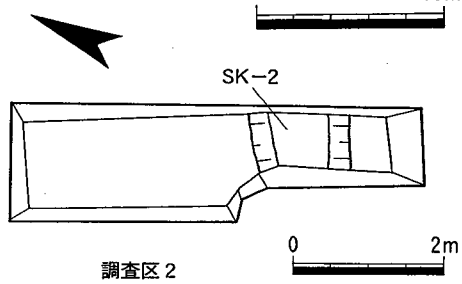
1：盛土、撹乱　（第1層）
2：にぶい黄橙色（10YR7/4）土　（第2層）
3：灰黄褐色（10YR6/2）土　（第3層）
4：褐灰色（2.5Y6/1）土（動溝）
5：灰黄色（2.5Y6/2）砂質土　（第4層）
6：暗灰黄色（2.5Y5/2）粘質土　（第5層）
7：灰黄褐色（10YR4/2）砂礫混じり土　（第6層）
8：黒褐色（10YR3/1）砂礫混じり粘土　（第7層）
9：褐灰色（10YR4/1）礫混じり粘土　（第8層）
10：褐灰色（7.5Y4/1）砂礫混じり粘土　（第9層）
11：にぶい黄色（2.5Y6/4）シルト（第10層・地山）

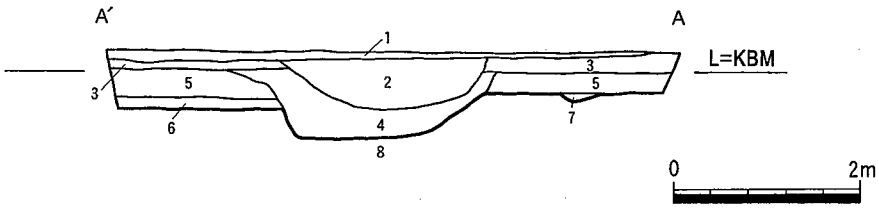
図26　2004－57区



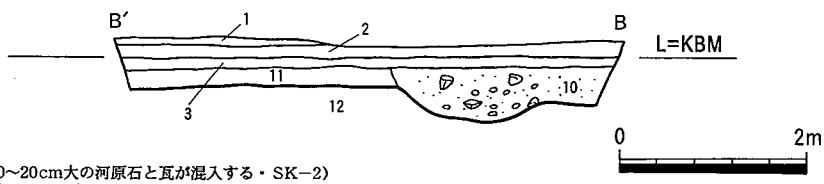








調査区1
1：盛土
2：撹乱
3：旧耕土
4：黄褐色（10YR5/6）土混じりにぶい黄褐色（10YR4/2）土　（SK−1）
5：灰黄褐色（10YR5/2）土
6：灰黄褐色（10YR4/3）礫混じり土
7：浅黄色（2.5Y7/4）粘土ブロック混じり暗灰黄色（2.5Y5/2）粘質土　（SD−1）
8：にぶい黄色（2.5Y6/4）シルト（地山）



調査区2
9：灰黄褐色（10YR5/2）砂質土
10：黄灰色（2.5Y4/1）砂礫土（10〜20cm大の河原石と瓦が混入する・SK−2）
11：暗灰黄色（2.5Y6/2）粘質土（2〜3cm大の礫が混入する）
12：にぶい黄橙色（10YR6/4）粘質シルト（地山）

図27　2003−69区

報告書抄録	
ふりがな	かいづかしいせきぐんはっくつちょうさがいよう
書名	貝塚市遺跡群発掘調査概要
副書名	
巻次	27
シリーズ名	貝塚市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第 67 集
編著者名	三浦　基、木嶋崇晴
編集機関	貝塚市教育委員会
所在地	〒597-8585　大阪府貝塚市畠中１-17-１　TEL0724-23-2151
発行年月日	西暦2005年3月31日

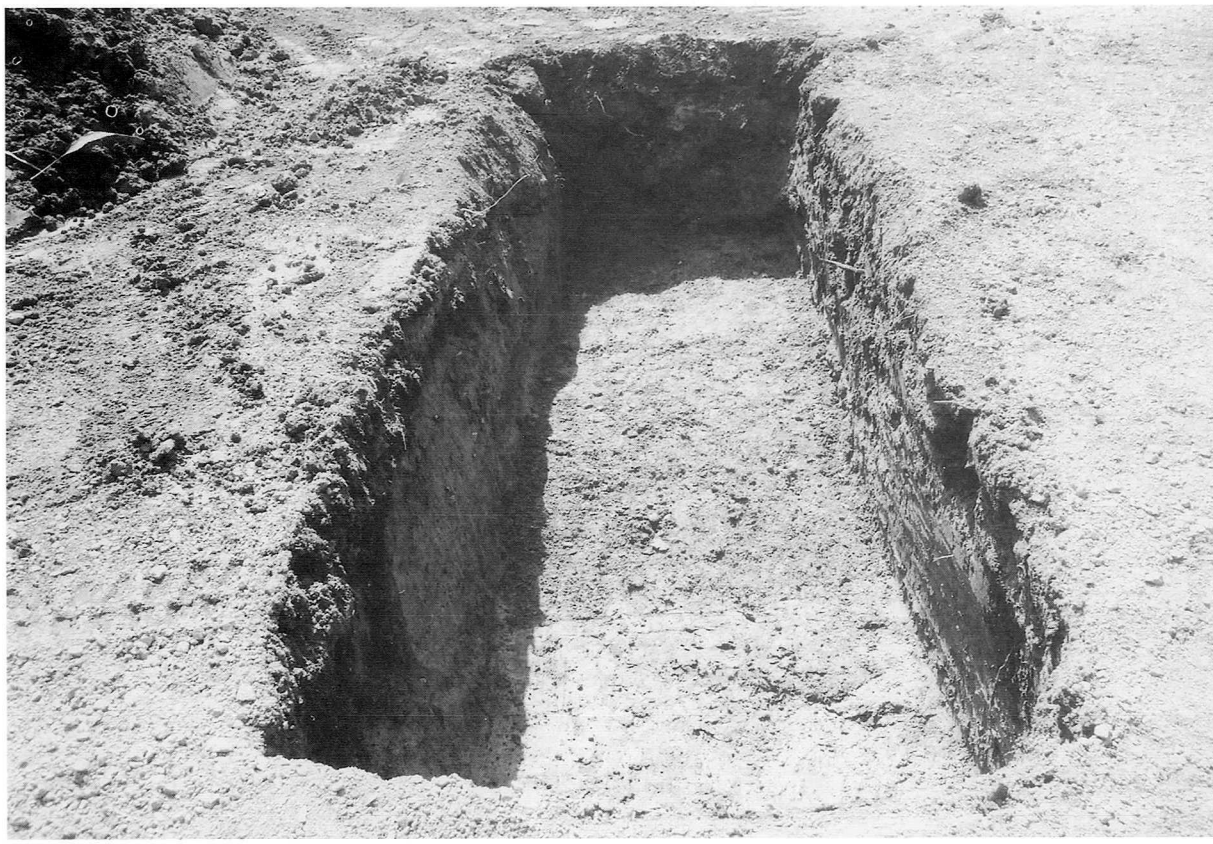
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	大阪府貝塚市 はたけなか 畠中	27208	23	34度26分 11秒	135度20 分49秒	2004 0401～0402	6	個人住宅
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	大阪府貝塚市 わきはま 脇浜	27208	23	34度26分 11秒	135度20 分49秒	2004 0702	8	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 なか 中	27208	22	34度27分 11秒	135度20 分49秒	2004 0126～0127	4.5	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 きたまち 北町	27208	22	34度27分 11秒	135度20 分49秒	2004 0412～0413	5	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 きたまち 北町	27208	22	34度27分 11秒	135度20 分49秒	2004 0514	6	個人住宅
わきはまいせき 脇浜遺跡	大阪府貝塚市 わきはま 脇浜	27208	66	34度26分 11秒	135度20 分49秒	2004 0416	3	個人住宅
わきはまかわばたいせき 脇浜川端遺跡	大阪府貝塚市 わきはま 脇浜	27208	111	34度26分 11秒	135度21 分49秒	2004 0316	4	個人住宅
くぼたいせき・くぼたはいじ 窪田遺跡・窪田廃寺	大阪府貝塚市 くぼた 窪田	27208	51	34度25分 11秒	135度22 分49秒	2004 0409	15	個人住宅
くぼたいせき・くぼたはいじ 窪田遺跡・窪田廃寺	大阪府貝塚市 さわ 沢	27208	51	34度25分 11秒	135度22 分49秒	2004 0715	4.5	個人住宅
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	大阪府貝塚市 じぞうどう 地蔵堂	27208	72	34度25分 11秒	135度20 分49秒	2004 0204	3.75	個人住宅
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	大阪府貝塚市 じぞうどう 地蔵堂	27208	72	34度25分 11秒	135度20 分49秒	2004 0416	4	個人住宅
じぞうどうはいじ 地蔵堂廃寺	大阪府貝塚市 じぞうどう 地蔵堂	27208	8	34度25分 11秒	135度20 分49秒	2004 0910	37.75	個人住宅
くぼいせき 久保遺跡	大阪府貝塚市 くぼ 久保	27208	103	34度26分 11秒	135度21 分49秒	2004 1105	4.5	個人住宅
はんだきたいせき 半田北遺跡	大阪府貝塚市 はんだ 半田	27208	95	34度26分 11秒	135度21 分49秒	2004 1116	6	個人住宅
にいのいけいせき 新井ノ池遺跡	大阪府貝塚市 あそなか 麻生中	27208	30	34度26分 11秒	135度21 分49秒	2004 0908	6	個人住宅
はたはいじ 秦廃寺	大阪府貝塚市 はんだ 半田	27208	10	34度26分 11秒	135度21 分49秒	2004 0225～0226	20	個人住宅
あそなかでぐちいせき 麻生中出口遺跡	大阪府貝塚市 あそなか 麻生中	27208	86	34度26分 11秒	135度21 分49秒	2004 0715	3.75	個人住宅
しゃくぜんじじょうあと 積善寺城跡	大阪府貝塚市 はしもと 橋本	27208	35	34度25分 11秒	135度20 分49秒	2004 0707	8	個人住宅
しゃくぜんじじょうあと 積善寺城跡	大阪府貝塚市 はしもと 橋本	27208	35	34度25分 11秒	135度20 分49秒	2004 0802	12.5	個人住宅

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なごせいせき 名越遺跡	大阪府貝塚市 せちこ 清児	27208	71	34度25分 11秒	135度22 分49秒	2004 0209	5	個人住宅
なごせいせき 名越遺跡	大阪府貝塚市 せちこ 清児	27208	71	34度25分 11秒	135度22 分49秒	2004 0315～0316	20	個人住宅
みかやまにしいせき 三ケ山西遺跡	大阪府貝塚市 みつまつ 三ツ松	27208	69	34度24分 11秒	135度25 分49秒	2004 0524～0525	10.5	個人住宅
みかやまにしいせき 三ケ山西遺跡	大阪府貝塚市 みつまつ 三ツ松	27208	69	34度24分 11秒	135度25 分49秒	2004 0616～0617	6	個人住宅
みつまつきたがいといせき 三ツ松北垣外遺跡	大阪府貝塚市 みつまつ 三ツ松	27208	84	34度23分 11秒	135度21 分49秒	2004 1217	7.5	個人住宅
こつみかんのんじあと 木積観音寺跡	大阪府貝塚市 こつみ 木積	27208	18	34度22分 11秒	135度22 分49秒	2004 0323～0324	13	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	集落跡	近世	溝	瓦、陶磁器	
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	集落跡	中世、近世	柱穴、杭跡、溝	土師器、陶磁器	
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	溝	瓦、陶磁器	
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近・現代		瓦、陶磁器	
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	溝	瓦、陶磁器、土錘	
わきはまいせき 脇浜遺跡	生産遺跡、散布地	中世、近世		土師器、瓦器、白磁	
わきはまかわばたいせき 脇浜川端遺跡	集落跡				
くぼたいせき・くぼたはいじ 窪田遺跡・窪田廃寺	散布地、寺院跡			須恵器、瓦	
くぼたいせき・くぼたはいじ 窪田遺跡・窪田廃寺	散布地、寺院跡	中世、近世		土師器、瓦器	
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	古墳、集落跡、 社寺跡				
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	古墳、集落跡、 社寺跡	中世		土師器、瓦器	
じぞうどうはいじ 地蔵堂廃寺	古墳、集落跡、 社寺跡				
くぼいせき 久保遺跡	集落跡				
はんだきたいせき 半田北遺跡	集落跡	中世		瓦器、須恵器	
にいのいけいせき 新井ノ池遺跡	集落跡	中世		瓦器、瓦、須恵器	
はたはいじ 秦廃寺	寺院跡	中世、近世	鋤溝	土師器、須恵器、瓦	
あそなかでぐちいせき 麻生中出口遺跡	集落跡				
しゃくぜんじじょうあと 積善寺城跡	城跡	近世	溝、土坑	瓦、陶磁器	
しゃくぜんじじょうあと 積善寺城跡	城跡	中世・近世	濠跡	瓦	
なごせいせき 名越遺跡	散布地	中世	鋤溝	土師器、須恵器、瓦器	
なごせいせき 名越遺跡	散布地	近世、近代	溝	瓦	
みかやまにしいせき 三ケ山西遺跡	散布地	中世、近世		土師器、瓦器、瓦	
みかやまにしいせき 三ケ山西遺跡	散布地	中世、近世		土師器、瓦器、瓦	
みつまつきたがいといせき 三ツ松北石垣外遺跡	集落跡	中世		瓦器	
こつみかんのんじあと 木積観音寺跡	寺院跡、集落跡	近世	土坑、溝、石列	陶磁器、瓦	

図　　版

図版1　加治・神前・畠中遺跡（2004－1区）



1．2004－1区　遺構検出状況　（北より）

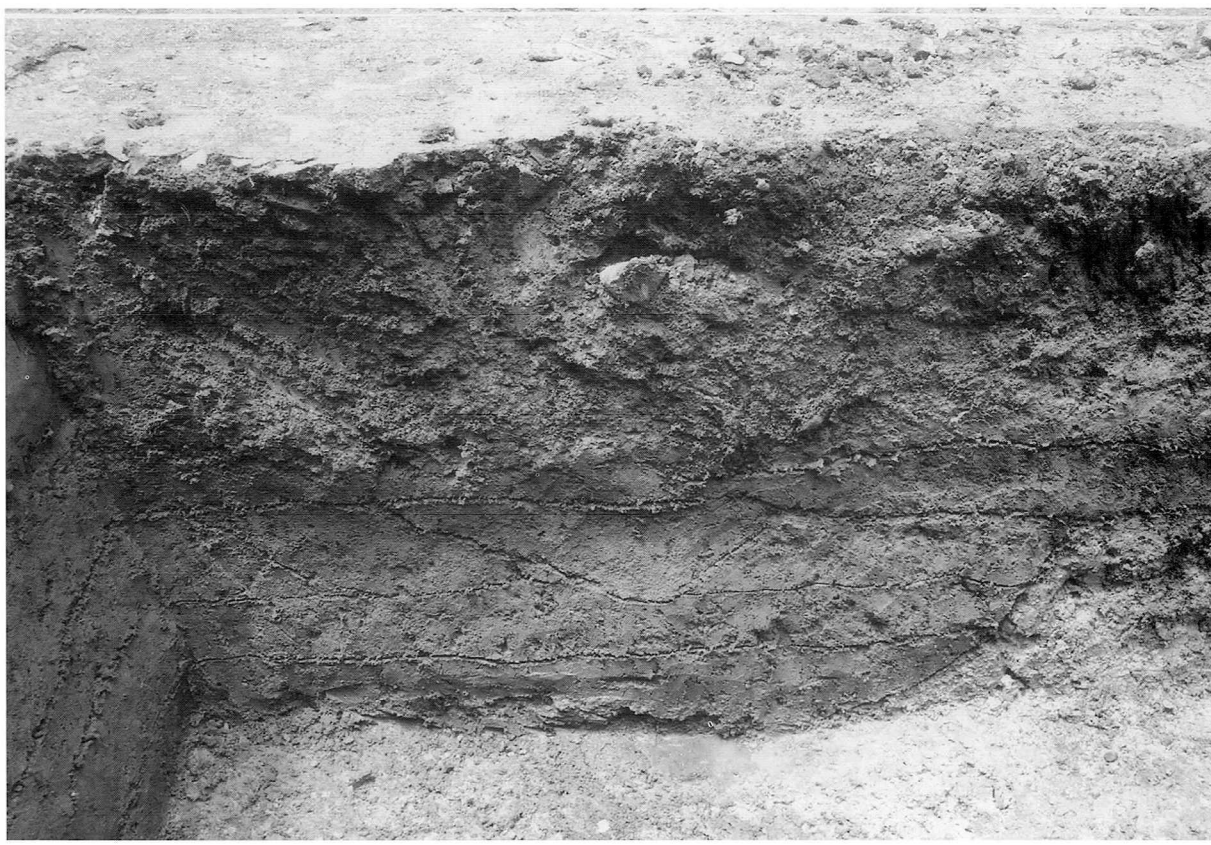
2．2004－1区　SD－1断面　（西より）

1．2004－25区　第1遺構面検出状況　（東より）

2．2004－25区　調査区西壁断面　（東より）

図版3　貝塚寺内町遺跡（2004－15区）

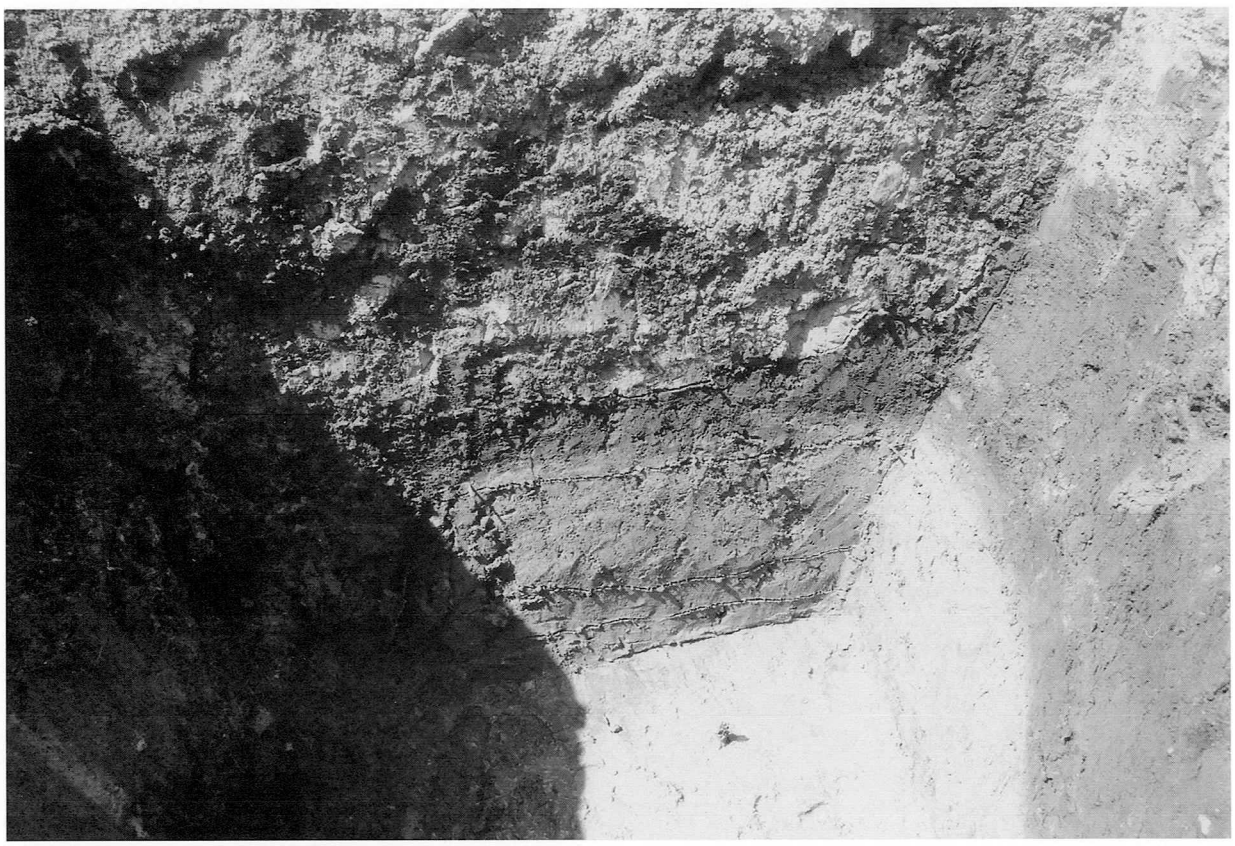
1．2004－15区　完掘状況　（東より）



2．2004－15区　調査区南壁断面　（北より）

図版4　地蔵堂遺跡（2004－6区）

1．2004－6区　完掘状況　（南より）



2．2004－6区　調査区西壁断面　（東より）

図版5　久保遺跡（2004－48区）

1．2004－48区　完掘状況　（西より）

2．2004－48区　調査区北壁断面　（南より）

図版6　半田北遺跡（2004－50区）

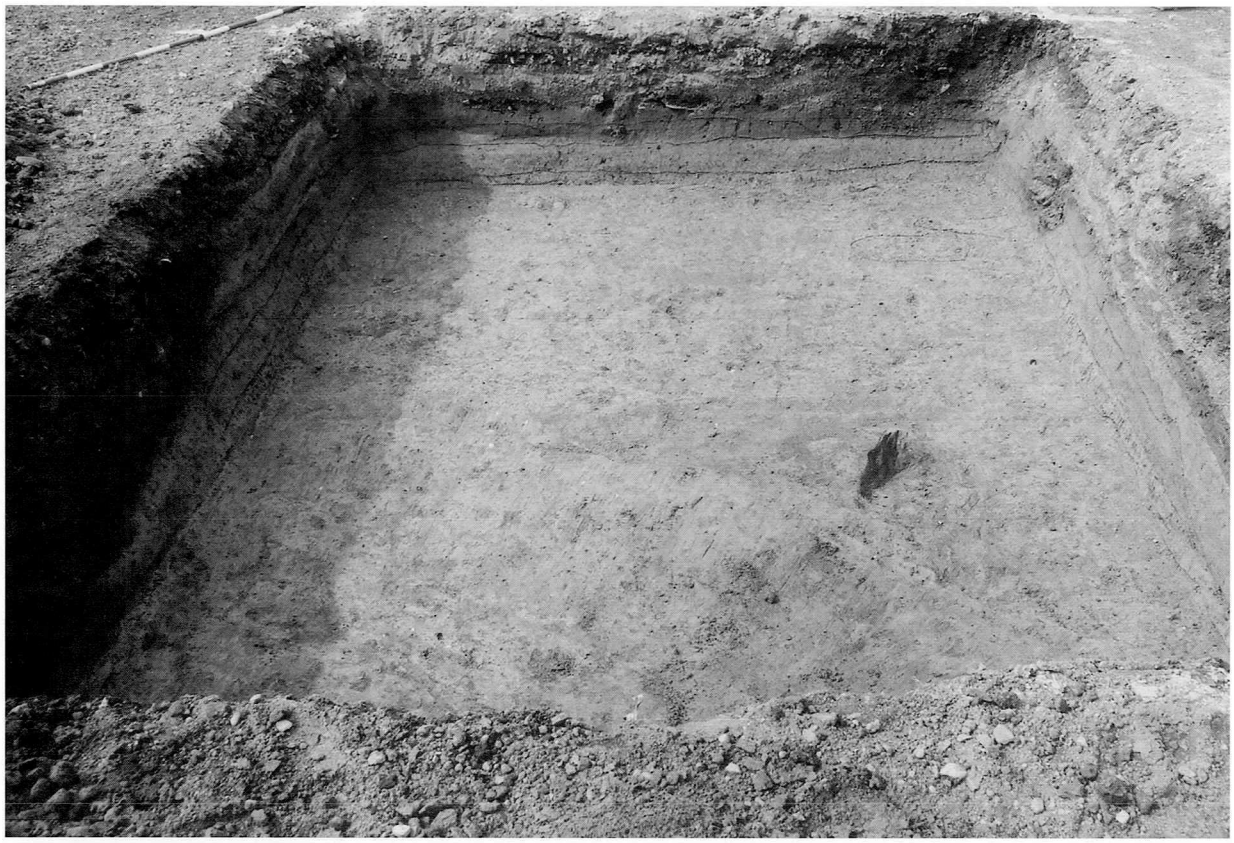
1．2004－50区　完掘状況　（東より）

2．2004－50区　調査区北壁断面　（南より）

1．2004－37区　完掘状況　（北より）

2．2004－37区　調査区南壁断面　（北より）

図版8　秦廃寺（2003－65区）



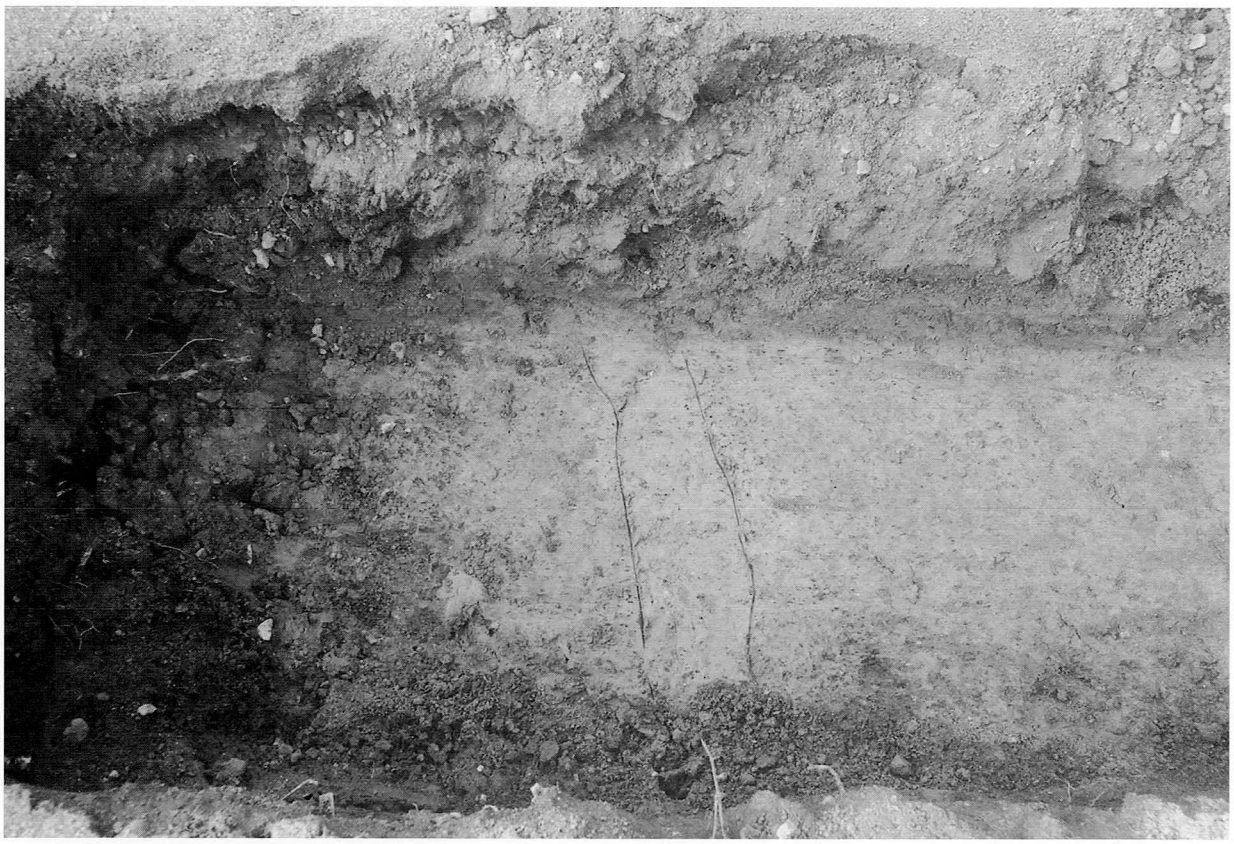
1．2003－65区　完掘状況　（東より）

2．2003－65区　調査区北壁断面　（南より）

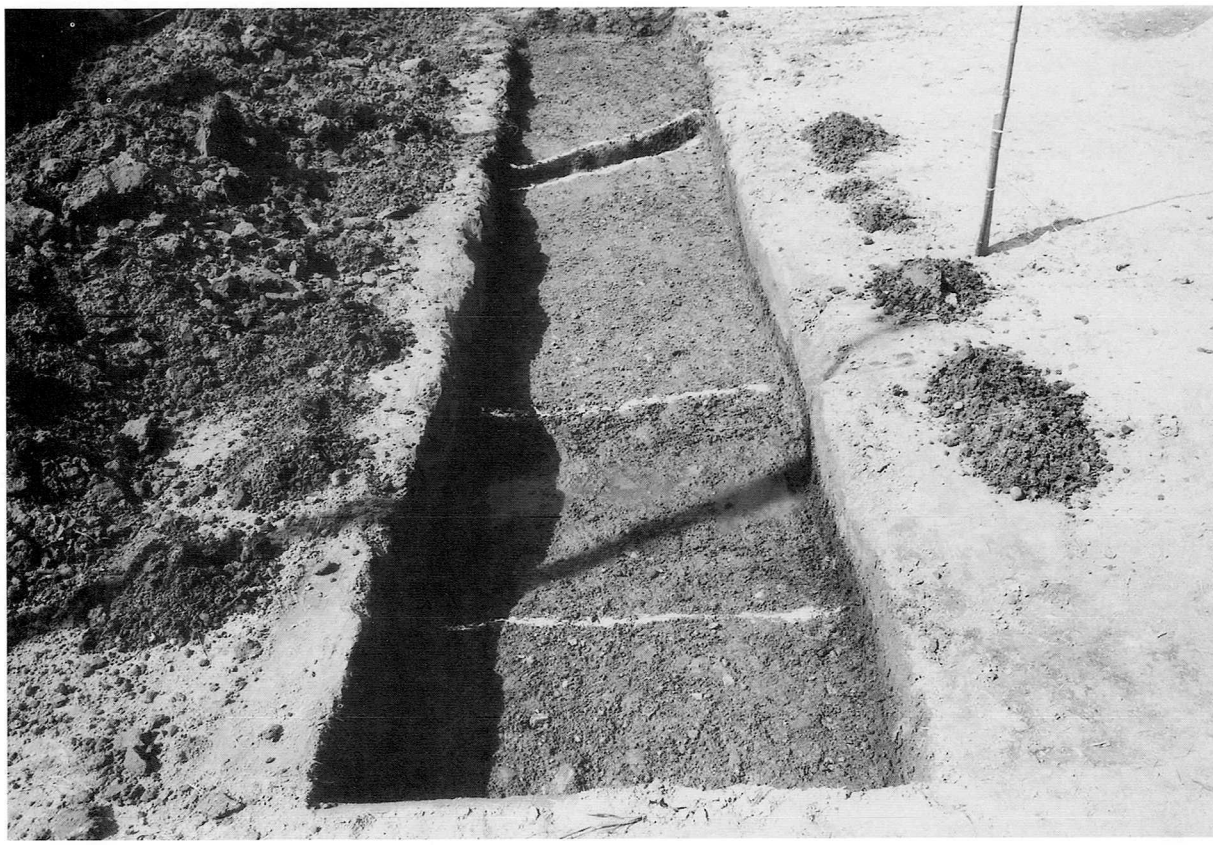
1．2004－31区　調査区1完掘状況　（北より）

2．2004－31区　調査区1西壁断面　（東より）

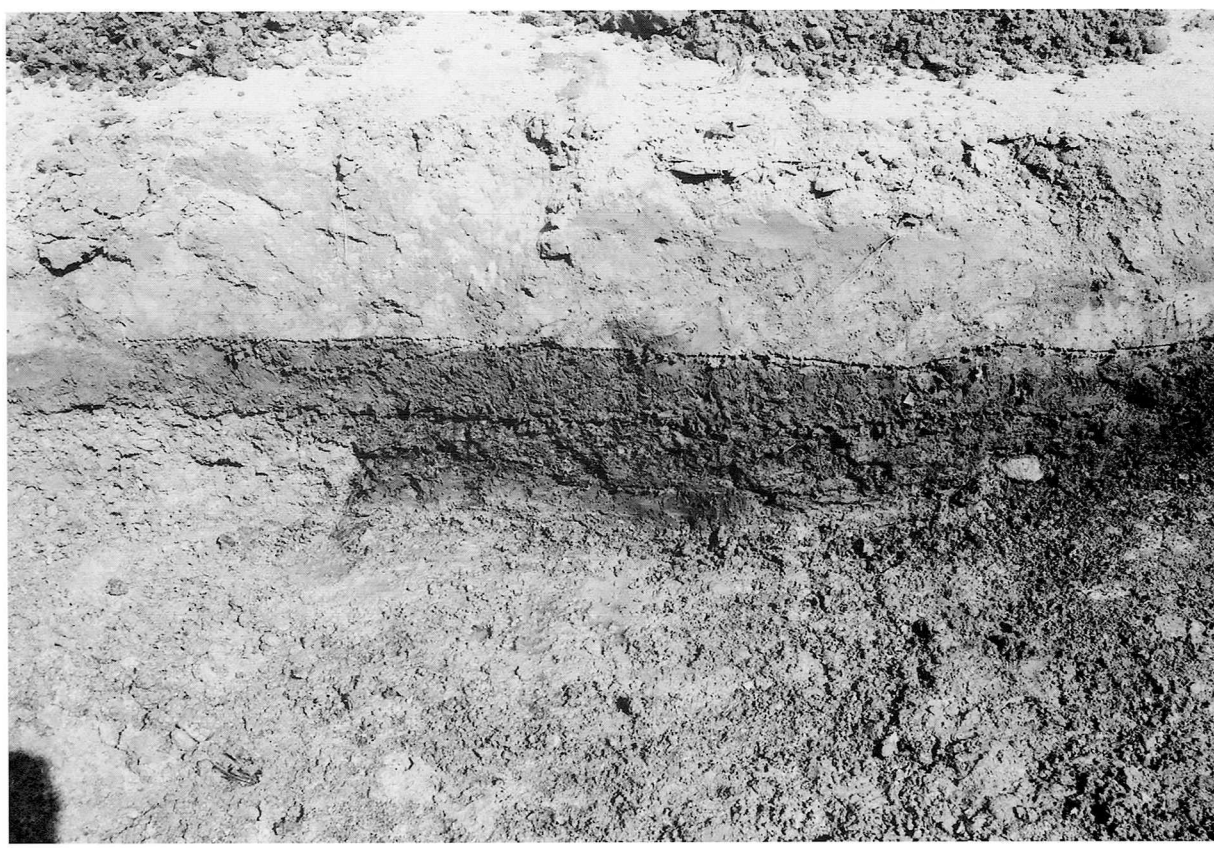
1．2003－63区　遺構検出状況　（南より）



2．2003－63区　鋤溝検出状況　（東より）

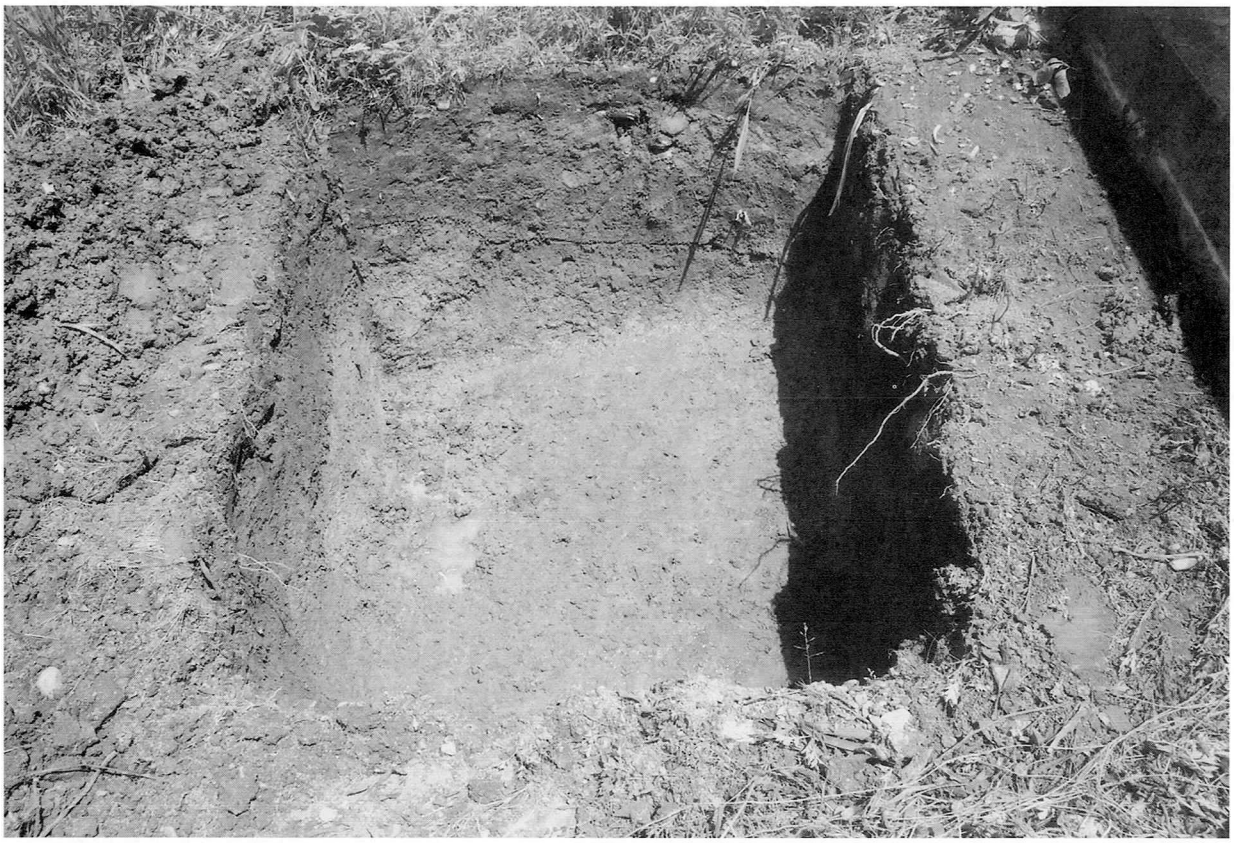


1．2003－66区　完掘状況　（東より）



2．2003－66区　SD－2断面　（南より）

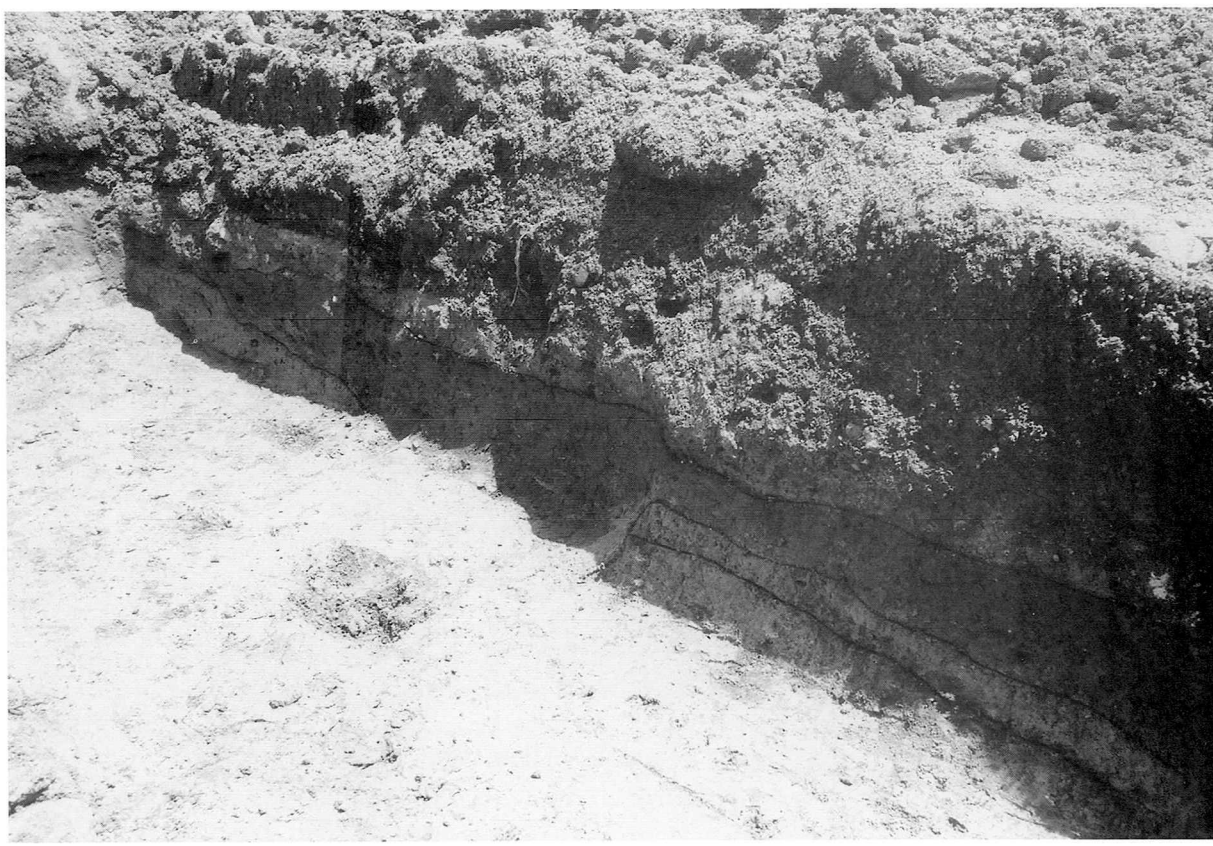
図版12　三ケ山西遺跡（2004－18区）



1．2004－18区　調査区2完掘状況　（南より）

2．2004－18区　調査区2東壁断面　（西より）

1．2004－22区　遺構検出状況　（南より）



2．2004－22区　調査区東壁断面　（西より）

図版14　木積観音寺跡（2003－69区）

1．2003－69区　調査区1遺構検出状況　（西より）

2．2003－69区　調査区2完掘状況　（南より）

貝塚市埋蔵文化財発掘調査報告　第67集

貝塚市遺跡群発掘調査概要 27

発　行　日　　平成17年(2005) 3月31日

編集・発行　　貝塚市教育委員会
大阪府貝塚市畠中1丁目17番1号

印　　刷　　(有) 山 村 印 刷 所
貝塚市近木1483－8